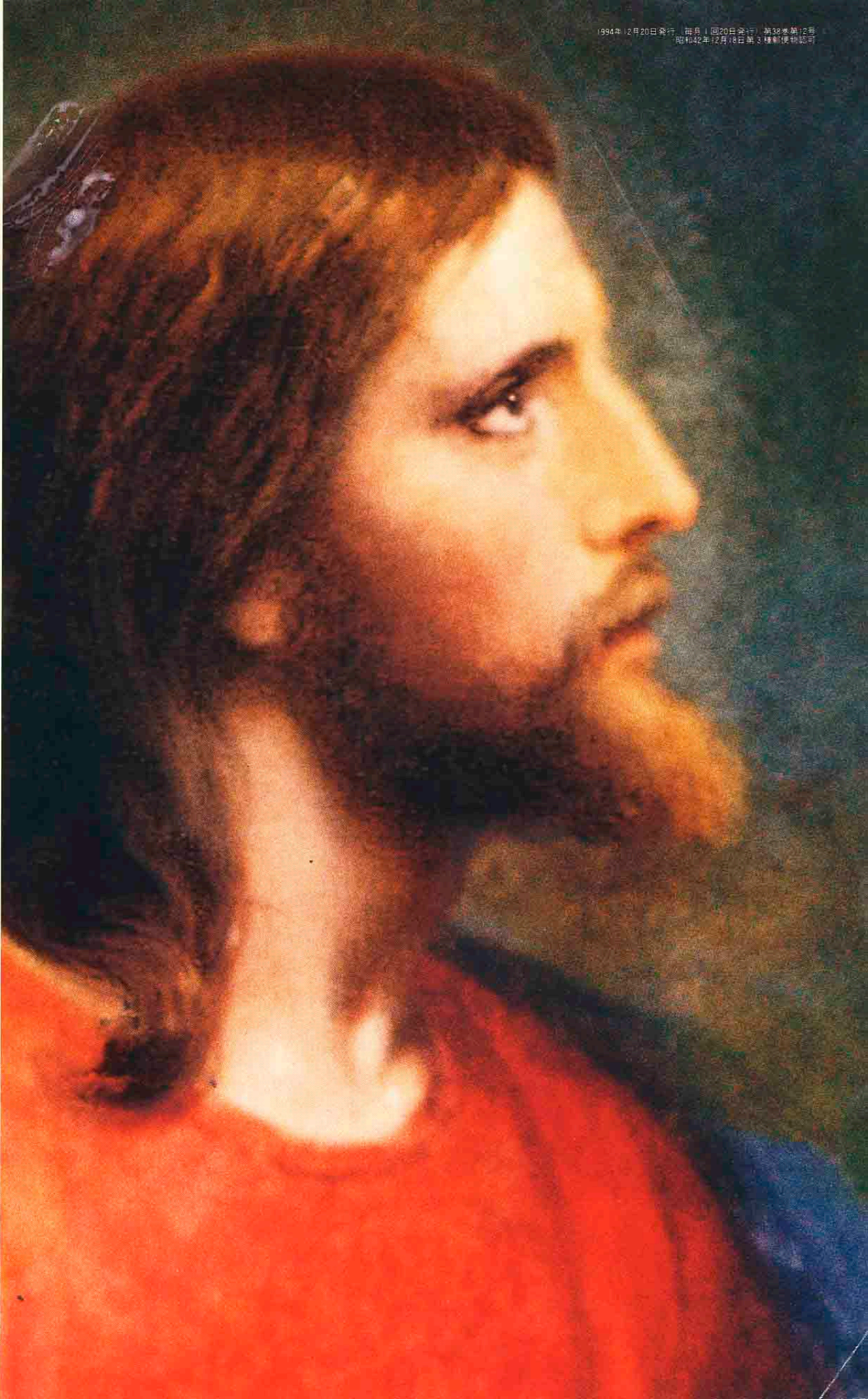


聖徒の道

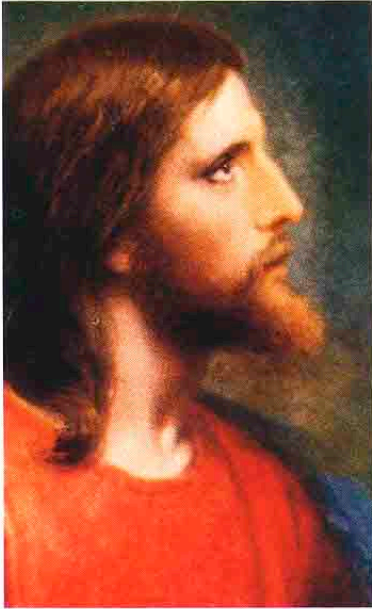
12
1994



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1994年12月号



今月号では、十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老が救い主の誠の信者であることを示す特質について語っている。(本誌「誠の信者」p.10参照。)

表紙——「キリストとサマリヤの女」(部分) アントン・ドーフ画

裏表紙——写真撮影/スティーブ・バンダーソン

こどものページ表紙——写真撮影/スティーブ・バンダーソン

一般

大管長会クリスマスメッセージ	1
大管長会メッセージ——常に善をなす	
第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー	2
45年分の什分の一 パーノン・L・ヒル	8
ハンガリーへのクリスマスプレゼント ジェフリー・S・マクレラン	16
たんぽぽに見いだした答え ミリー・フリッツ・レイエス	32
モルモン経に記されたクリスマス	34
新たな航路を進むミクロネシアの聖徒たち R・バル・ジョンソン	40

青少年

誠の信者 ニール・A・マックスウェル	10
なぜ起こしてくれなかったのですか ジョン・H・グローバーク	22
ポルトガルでの聖夜 バンデル・フェレイラ・デ・アンドラーデ	26
彼が予言者だなんて アルファ・R・カルーヨ	30

定期特別記事

家庭訪問メッセージ——霊的な確信	25
------------------	----

こども

クリスマスメッセージ 大管長会から世界中の子供たちへ	2
歌 イエスさまの誕生 パトリシア・ケルシー・グラハム	4
クリスマスの工作	6
分かち合いの時間——『イエスさまのように』 ジュディ・エドワーズ	7
クリスマスの次の日、サラ・モーズリーがしたおくり物 レイ・ゴールドラップ作	10
友だちになろう——キリル・キリルークとターニャ・ホローショ ローズマリー・G・パルマー	13

クリスマスメッセージ

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン
 十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーグス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド
 編集長：レックス・D・ピネガー、ジョー・J・クリステンセン

顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、スペンサー・J・コンディアー、ジョン・H・グローバーク

教科課程管理責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
 企画・編集ディレクター：プライアン・K・ケリー
 グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク
 機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カワサキ

国際機関誌

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミツチェル

編集補佐/こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：メアリーアン・マーティンデル

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー：シェリー・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

予約販売スタッフ

購読管理ディレクター：B・レックス・ハリス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン、ケン

ト・H・ソレンセン

聖徒の道1994年12月号第38巻第12号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円,大会号350円

Copyright © 1994 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1992年10月 翻訳承認—1992年10月 原題—International Magazines December 1994. Japanese. 94992 300

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙、でお申し込みになるか、または現金書留郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経

理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

クリスマスは忙しい季節です。街や商店は最後の準備をする人々であふれ、高速道路を行く旅行者の数が増え、空港も込み合います。キリスト教国はどこも、音楽、イルミネーション、クリスマスの装飾で活気づきます。クリスマスツリー、ケーキ作り、宿り木の飾り、プレゼント交換などは、どれもクリスマスを祝う方法のひとつです。しかし真のクリスマスの精神は、より深い所にあります。真のクリスマスの精神は、主の生涯と使命、また主が説かれた原則、主が捧げられた贖いの犠牲の中にあるのです。

キリストは単なる歴史上の人物ではありません。キリストは、場所と時代を問わず、すべての人の救い主であります。もし私たちが扉を開けるなら、主は入って来てくださいます。平和の君は私たちに心の平安を与えたいと望んでおられるのです。その平安が心になれば、私たちも平和を作り出す人となれるでしょう。

もしクリスマスの真の精神を見だし、そのすばらしさを人々と分かち合いたいと望むなら、この忙しい季節にあっても、神に心を向ける時間を見つけてください。静かな時に、静かな場所で、ひとりであるいは愛する人たちとともにひざまずき、これまで受けてきた善いものに感謝を捧げてください。また、神に仕え戒めに従おうと熱心に努力するとき主のみたまが与えられるよう祈ってください。主はあなたの手を取り、約束を守ってくださることでしよう。

人は皆遅かれ早かれ(私たちはできるだけ早い時期に気づいてくれるよう望んでいます)、キリストが示された道が正しい道であるばかりでなく、希望と喜びに通じる究極的な唯一の道であることを認めるようになるでしょう。すべてのひざかががみ、すべての舌は、やさしさが無慈悲な行ないに勝ることと、思いやりが力よりも偉大であることを告白するのです。私たちは全力を尽くして、もっと主に近い人間にならなければなりません。

これが世の人々への私たちの願いであり、望みです。私たちは、イエスこそ尽きぬ喜びの唯一の源であり、永続する平安は主によってしか得られないことを証します。私たちは神の長子について証します。そのお方は「われわれの悲しみをにな(い)」「われわれのところがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれた」(イザヤ53:4-5)のです。また、キリストがメシヤであられることを厳粛に証します。アブラハム、イサク、ヤコブの子孫たちはキリストの降誕を長い間、祈り求めていました。キリストが生きておいでになることを証します。主は肉における御父の独り子、また救い主、世の光にして世の命です。キリストにこそ真のクリスマスの精神があるのです。□

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.



常に善をなす

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

だれもが皆、子供のころのクリスマスの思い出を持っています。クリスマスには楽しいことがいろいろあります。きれいに包んだプレゼントを交換し合ったり、好きな歌をキャロリングで歌ったり、また普段はお目にかかれないごちそうに舌鼓を打ったり、家族や友人と一緒に集まったりして、すべての人がすばらしい時を過ごします。

しかし、そのほかにも、もっとすばらしいことがあります。ユダヤのベツレヘムでお生まれになったイエスの魅力的な物語を、家族と一緒に読むことです。福音書を記したマタイとルカは、簡潔な美しい文章で、このすばらしい物語を伝えています。

私たちは子供のころからこの物語を聞いてきました。今では私たちの生活の一部、しかも非常に大切な一部となっています。子供は皆、特に自分をクリスチャンと思っている子供は、すべての人のためにこの地上に来て、命を捨てられた神の御子、主の物語を学び、楽しむ必要があります。

この物語は、新約聖書の記述を素材として、多くの作家によって語られてきました。愛と尊敬の念をもって、正しい理解の下に、美しく語り伝えられてきたのです。そのような作家のひとりにチャールズ・ディケンズがいます。



キリスト降誕の物語は、クリスマスの季節に集まって救い主降誕の喜びとすばらしさを分かち合う親子を、時代の流れを超えて強く引きつけてきた。

彼は当時のイギリスで最も人気のある作家でした。1812年に生まれ、1870年に没したディケンズは「二都物語」「大いなる遺産」「クリスマス・カロール」「ニコラス・ニコルビー」「オリバー・ツイスト」「デビッド・コパフィールド」など、時代を超えて読み継がれる名作を残しました。ディケンズには10人の子供がいましたが、その豊かな想像力が生み出す数々の物語で彼らを楽しませました。

同時にディケンズは主を愛し、自分の子供たちにも主を愛するように望んでいました。1849年、「デビッド・コパフィールド」の執筆期間中に、彼は「我らが主の生涯」という小品を書き上げました。この作品は出版するつもりで書いたものではなく、かわいい自分の子供たちのためだけに創作したものでした。ディケンズは、この作品の出版を許可しようとしませんでした。それは、自分の子供たちに向けた簡潔な証であり、あくまでも私的なものだったからです。彼の子供たちはやがて大人になりましたが、彼らもその出版を許可しませんでした。そして85年にわたり、家族のためだけの作品として大切に保存していきました。しかし、1933年に末の子が亡くなると、1世代が経過したことを考慮して、家族はこの作品を出版するという決定を下しました。

今を去る60年前の1934年、私がロンドンで宣教師として働いていた時のことです。ある大衆新聞に、ディケンズの「我らが主の生涯」が連載されるという広告が出されたのを今でもはっきりと覚えています。私はそのことをほとんど気に留めませんでした。連載終了後、その小説は1冊の本として出版されました。大変な評判になりましたが、やがて波が引くように人々の関心も薄れていったようでした。

それから何年かたったある日、妻がこの本を見つけ、子供たちに読んで聞かせました。教義的には私たちと相いれない点はいくつかありますが、それは美しくわかりやすい言葉で書かれたすばらしい物語です。クリスマスの季節に当たり、この物語の一部をご紹介します。一切手を加えず、ディケンズが書いたそのままの表現でお伝えしたいと思います。

「かわいい子供たち、私はおまへたちにイエス・キリストの生涯について何がしかのことを知ってほしいと心から願っています。キリストについては、すべての人が知るべきだからです。キリストほど正しく、親切で、やさしい人はいませんでした。また、キリストほど、悪いことをした人や、病気の人、かわいそうな暮らしをしている人のために悲しんだ人はいませんでした。キリストは今、天国にいます。そこは私たちも行きたいと望んでい

る所です。だれでも、死んだ後に、またそこでみんなと会いたいと願っています。そこにはいつも幸せがあります。おまへたちは、キリストがどのようなお方で、何をなされたかを知って初めて、天国がどれほどすばらしい所か考えられるようになるでしょう。

キリストは昔々、2,000年ほど前に、ベツレヘムという所でお生まれになりました。お父さんとお母さんはナザレという町に住んでいましたが、税金のことでベツレヘムまで旅をしなければいけなくなりました。お父さんはヨセフ、お母さんはマリヤという名でした。ベツレヘムの町には、やはり税金のことでやって来た人々がたくささんいて、ヨセフとマリヤは、宿屋も泊めてくれる家も見つけられませんでした。それでふたりは馬小屋へ行き、そこに泊まることにしました。そしてこの馬小屋でイエス・キリストがお生まれになったのです。そこには揺りかごも、それらしき物も、何もありませんでした。マリヤはかわいい赤ちゃんをかいばおけに寝かせました。かいばおけとは馬が食べるえさを入れておく物です。イエス・キリストはそのかいばおけの中でお休みになりました。

キリストがお休みになっていたころ、野原で羊たちの番をしている羊飼いたちがいました。その時、この羊飼いたちは、光り輝く美しいひとりの天使が神様から遣わされて、彼らのいる草原の方に降りて来るのを見ました。羊飼いたちは初めは恐れて、倒れ、顔を隠しました。しかし、天使が言った言葉はこうでした。『きょう、この近くのベツレヘムの町にひとりの御子がお生まれになった。その御子はやがてとてもりっばなお方となり、神からご自身の子として愛される。そしていつか人々に、互いに愛し合い、争ったり傷つけ合ったりしないようお教えになり、その名はイエス・キリストとなえられる。人々は、祈りの中でそのお名前をとねるようになる。それは、神がこのお方を愛しておいでになることを知り、自分たちもこのお方を愛さなければならないことを知るからである。』それから天使は羊飼いたちに、馬小屋へ行き、かいばおけの中の幼な子を見て来るようにと仰いました。そして彼らはその言葉どおりにし、眠っておられたキリストのそば近くにひざまずき、『この御子のうえに、神の祝福あれ』と仰いました。

イギリスでいちばん大きな町はロンドンですが、そのころ、ユダヤでいちばん大きい町はエルサレムという町でした。エルサレムにはヘロデという名の王が住んでいました。ある日何人かの博士たちが東の方の遠く離れた国からやって来て、ヘロデ王に仰いました。『私たちは空にひとつの星を見ました。そしてその星はベツレヘムにひとりの御子がお生まれになったこと、またその御子が



「御使^{みつかい}たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼^{ひつじかい}たちは『さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ^{たがひ}させたその出来事を見てこようではないか』と、互に語り合った。そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼^{かい}葉^はおけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。」(ルカ 2: 15-16)

やがてすべての人々から愛されるようになることを知らせてくれました。』ヘロデ王はとても悪い人だったので、これを聞くと、ねたまました。しかしそんなそぶりは見せず、博士たちに『その子供はどこにいるのか』と聞きました。博士たちは答えました。『私たちも知りません。しかしその星が教えてくれると思います。その星はここへ来るまでずっと、私たちの前を進み、今も空にとどまっているからです。』するとヘロデは博士たちに、その星が子供のいる所を示してくれるかどうかを確かめ、も

し子供を見つけたら、自分の所へ戻って来るようにと命じました。博士たちが外へ出ると、星は彼らの少し前を進み、やがて御子のおられた馬小屋の上で止まりました。これはとても不思議な話ですが、神様が星にそう命じられたのです。

星が止まると、博士たちは馬小屋の中に入り、そこで母マリヤとともにおられる御子の姿を見ました。博士たちは御子をととても愛し、いくつかの贈り物をしました。そしてその場を立ち去りましたが、ヘロデ王の所へは戻りませんでした。というのは、ヘロデ王は口にこそしなかったものの、ねたま^{やみ}気持ちを起こしていると考えたからです。そして夜の闇に紛れて、自分たちの国へ帰って行きました。』(「我らが主の生涯」 pp.11-17)

この美しい物語はこうして始まります。ディケンズは、ヨセフをイエスの父親として描いています。ヨセフは多くの人々にそう考えられていました。しかし私たちは、永遠の父なる神こそがイエスの御父であり、イエス・キリストが肉における神の独り子であられることを知って

います。

ディケンズは子供たちのために、さらに主の生涯の物語を続けています。彼は主を「我らが救い主」と呼び、その教え、奇跡、邪悪な人々の手にかかって殺されたことなどを書いています。そしてこの小さな作品の最後に次のように書いています。

「忘れないでほしい。自分に向かって悪いことをする人に対しても、いつも善を行ないなさい。それがキリストの教えです。自分を愛するように隣り人を愛し、自分がしてほしいと思うことをすべての人に対して行ないなさい。それがキリストの教えです。人にやさしく、隣れみ深くし、過ちを赦しなさい。そして、それらの徳を心の中にひそかにとどめ、決してひけらかしてはいけません。祈りや神への愛をひけらかしてはいけません。すべてにおいて正しいことを行なうようへりくだって努力することで、常に神への愛を示すようにしなさい。それがキリストの教えです。そのように行ない、また私たちの主イエス・キリストの生涯と教えを心に留め、その模範に倣って生きる努力をするなら、神が自分の罪や過ちを赦し、安らかに生き、死を迎えられるようにしてくださいとう、確かな望みを持てるようになるでしょう。」(同上、pp.124-127)

「クリスマス・カール」はすべての人に愛されているディケンズの不朽の名作です。この物語の主人公はエブニゼル・スクルージという利己的な金持ちです。自分の雇い人ボブ・クラッチトに対する扱いにしても、彼はけちで冷淡でした。あるクリスマスイブの夜に、すでに世を去っていたかつての共同経営者ジェイコブ・マーレイが現われ、過去のクリスマス、現在のクリスマス、未来のクリスマスの幻をスクルージに見せました。その恐ろしい体験にスクルージは大変な衝撃を受けました。しかし、それが夢だったとわかると、とても幸せな気持ちになり、生活のすべてを変えます。彼はクラッチト家族に助けの手を差し伸べました。この物語は、人の生活を完全に変えることができるキリストのみたまを描いています。惜しめない思いやりが利己心に取り替わって代わることを示した物語であり、深い愛が無関心に、愛が憎しみに取って代わることを示した作品です。それは体の不自由な、小さなティムが捧げた清らかな祈りの物語です。ティムは、「神様、すべての人を祝福してください」と祈り求めたのです。

これはクリスマスを題材にしたディケンズの名作であり、多くの人の称賛を博しています。一方、「我らが主の生涯」は非常に私的なものとして書かれ、技巧的にも想像の飛躍においてもまったく地味な作品で、自分の子供

たちのためだけに創作された読み物です。しかし、この作品には美しい描写だけでなく、「忘れないでほしい。自分に向かって悪いことをする人に対しても、いつも善を行ないなさい」という力強い勧告も含まれているのです。

多くの人々に称賛されたディケンズの「我らが主の生涯」という飾りけのない作品はこのようなものでした。ディケンズの偉大な数々の作品は、彼の存命中も、またその死後も、数多くの人々によって読み継がれてきました。しかし、編集の手を一切加えず、イエスの生涯を描いたディケンズ直筆のこの物語は、85年にわたり、家族だけの宝として大切にされていました。直筆原稿上の誤筆をそのまま残して印刷されたとはいえ、この作品はディケンズの家族だけでなく、多くの人々に喜びを与えてきました。

それは、かつて地上に生を受けた者の中で最も偉大なお方、すなわち全能なる神の御子、世の贖い主、平和の君、聖者と呼ばれたお方の降誕と生涯、そして死についての無数の証のひとつです。

イザヤは予言の中で、そのお方についてこう書いています。「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」(イザヤ9:6)

次にキリストについてのヨハネの言葉を読んでみましょう。「わたしよりも力のあるかたが、おいでになる。わたしには、そのくつのひもを解く値うちもない。」(ルカ3:16)

愛弟子ヨハネは、よみがえられた主を岸辺で見た時、「あれは主だ」(ヨハネ21:7)と叫びました。

次の天使の言葉もキリストについて語ったものです。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。」(使徒1:11)

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンはキリストについてこう証しています。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』ことなり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証した



イエスは人々を祝福し癒され、常に善を行なうよう私たちに教えられた。贖いの犠牲と復活という主の賜は、全人類に不死不滅と永遠の生命への扉を開いた。

もう。」(教義と聖約76：22-24)

上記の証あかしに加えて、この時代に生きる私たちも証します。主は実在のお方です。神の御子であり、大いなるエホバと呼ばれたお方はベツレヘムの馬小屋で生まれることを謹んでお受けになったのです。主は人々の間を経巡り、善を行ない、彼らを祝福し、癒されました。また、主は大いなる贖あがないの犠牲として、カルバリの十字架でご自身の命きさきを捧げ、3日後によみがえられました。主は実在のお方であり、御父の右手に座しておられます。イエス・キリストは私たちの主、また贖あがない主、導き手、助け手、友であり、その贖あがないを通して、不死不滅と永遠の生

命に至る門が開かれました。

美しく、祝福された季節になりました。主イエス・キリストとその最も大切な教え、すなわち、絶えず善を行ないなさいという教えをともに喜ぼうではありませんか。
□

ホームティーチャーへの提案

1. クリスマスの季節に当たり、イエスの降誕に関する聖典の記録を、個人で、あるいは家族一緒に読むことは大切である。
2. イエス・キリストの福音の心髄は、自分がしてほしいと思うことを人にするという戒めである。
3. 私たちはクリスマスに幼な子キリストの物語を読む。このキリストこそ、復活された実在のお方であり、世の救い主であり、予言者ジョセフ・スミスに姿を現わされたお方である。そして、ご自身の生ける教会を今日も導いておられる。

45年分の什分の一^{じゅう ぶん いち}



バーノン・L・ヒル

チェコスロバキア・プラハ伝道部のリチャード・ウインダー伝道部長から、私は「モルモン伝道部」とだけあて名書きされた手紙を受け取りました。その手紙には、1948年、私が若いころ宣教師として働いたチェコスロバキアの小さな鉄道の町チェスカトレボバの消印が押してありました。あれから45年を経て、今度は妻とともにチェコスロバキアのボヘミアで伝道していた時のことです。

チェスカトレボバという地名から、昔その町で唯一の教会員だったルカソバ姉妹のことを思い出しました。1948年、ルカソバ姉妹は、自分の住む地域に宣教師を送ってくれるようにと要請してきました。私は同僚とともに、チェスカトレボバで何週間か伝道し、ルカソバ姉妹は、私たちが小さな集会を開けるように協力してくれました。しかし警察がそのような集会のひとつを中断し、厳しい尋問を行なったため、伝道部長は私たちふたりの宣教師をプラハへ引き戻しました。それ以来、ルカソバ

姉妹の教会との接触は断たれてしまいました。

ルカソバ姉妹はおそらくもうこの世にいないだろうと思いつつ、私は封筒を開けました。その手紙には次のように記されていました。

「私のおばは1930年以來、ずっとそちらの教会の会員です。おばはもう87歳で、健康が優れません。この町にも、1948年にはグローサー長老とヒル長老のふたりの宣教師がいましたが、同じ年に彼らが引き揚げてしまっただけからというもの、おばは教会との接触を一切断たれてしまいました。どなたか教会の方を彼女の元へ送っていただけにいいでしょうか。おばはとても喜ぶと思うのです。」

私がこの手紙を読み終わると、ウインダー伝道部長は私の目をじっと見詰めてこう言いました。「この手紙はあなたにとって、とても意義深いものになるでしょうね。」

ふたりの若い宣教師とともに、私たちはチェスカトレボバへと向かいました。明るい色のエプロンを着けたルカソバ姉妹は、簡素な家で古いふかふかのいすに静かな

威厳をたたえて座っていました。彼女のまゆ毛にはまだ黒いものが残っていました。目は、喜びと親切な心、そして深い悟りをたたえていました。彼女の美しさと穏やかさの中には、年齢を感じさせない力がありました。

私たちは抱き合って、それからいろいろな考えや思い出を長い間分かち合いました。ルカソバ姉妹は45年前の私の写真をまだ持っていました。やがて、ルカソバ姉妹は何かを持って来るよう彼女のめいに頼みました。

そのめいが持って来たのは1冊の小冊子でした。ルカソバ姉妹は、それを私に手渡すと、こう言いました。「どうぞ。これを持って行ってください。主のものなんです。」

それは預金通帳でした。「私の什分の一じゅうぶんいちです」とルカソバ姉妹は言いました。

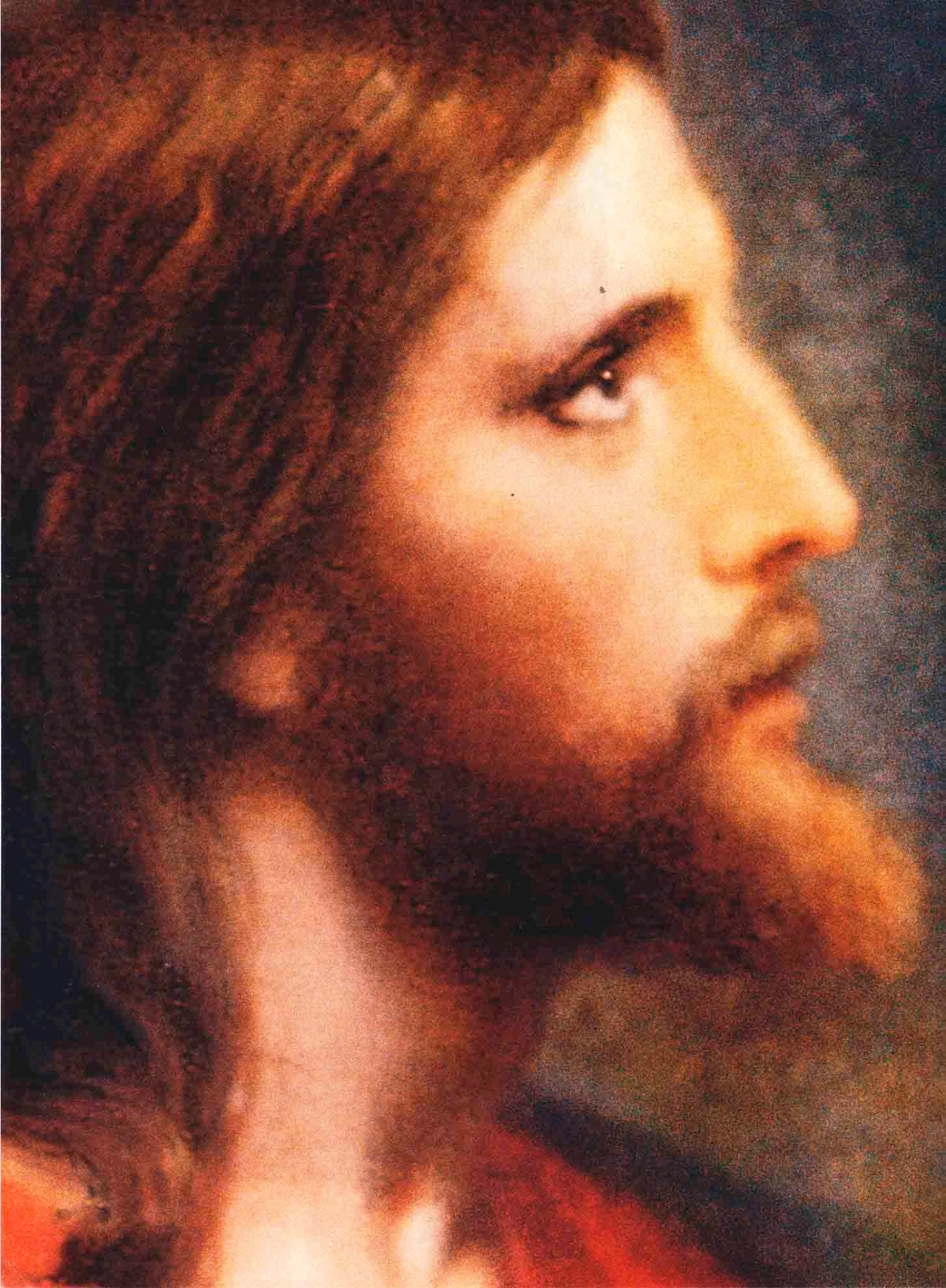


ばらばらとめくって見ると、驚いたことに、月々の預金欄は1948年から始まっていました。この預金通帳は、ルカソバ姉妹が、50年近い年月の間、病気や孤独、不安の中にあっても信仰を保ち続けたことを物語っていました。自分自身の証あかしと聖霊の励まし以外に何の支えもない状態で、ルカソバ姉妹は什分の一を納めるといふバプテスマの誓約を守り続けたのでした。

私たちは彼女のために聖餐会せいさんかいを開き、その燃えるような証を聞きました。それから間もなく私たちは帰途に就きました。最近、ルカソバ姉妹はドイツのフライベルク神殿で自身のエンダウメントを受けました。そして今も、永遠の祝福となる宝を天に蓄え続けているのです。□

左ページ——ルカソバ姉妹はバーノン・L・ヒル兄弟の宣教師時代の写真を長年保管していた。1993年、その写真を見ながらふたりは思い出を語り合った。下——もはやほかの教会員との接触を断たれることもなくなったルカソバ姉妹は、1994年、チェコスロバキアの聖徒たちとともにフライベルク神殿に参入した。(前列左から4番目)





まこと 誠の信者

十二使徒定員会会員
ニール・A・マックスウェル



誠の信者は、聖典に記された救い主のみ言葉を求める。霊性の中心を救い主に置くため、あらゆることをキリストを中心に考え、しかもその考え方は首尾一貫している。

文化によっては「誠の信者 (true believer)」という言葉に、「狂信者」という意味合いの含まれる場合があります。しかし、はるか昔にアルマや使徒ニーファイは、同じような表現を使って「真のキリスト信者」とは「神の教会」に属する「真に礼拝〔する〕者たち」のことでありと定義しています。(アルマ46：14；IVニーファイ1：36-37)

イエスはもちろん、キリストを真に信じる者とはどのような人物であるか、よく承知しておられます。普通の人なら、イエスの弟子がどのような人物かは、その弟子の救い主に対する愛の深さ、仲間や同胞に対する愛の強さ、などでわかるかもしれません。真に救い主を信じる人々には、次のような特徴があります。

誠の信者は、キリストに対する考えが一貫しています。自分に弱さがあっても、その霊性の中心を救い主に置いています。だから、あらゆることをキリスト中心に考え、しかも、その考え方で首尾一貫しています。

誠の信者は、喜んで王国の義務を果たします。ここで言う義務とは普通は目に見える、わかりやすいものを指しています。たとえば、ふさわしい状態で聖餐をいただく、クリスチャンらしい奉仕を行なう、聖典を勉強する、祈る、断食をする、儀式を受ける、家族

の義務を果たす、什分の一や献金を納める、伝道活動や家族歴史の活動を行なう、集会に出席する、神殿に参入する備えをする、といったことです。誠の信者がそれらを見ずから進んで実践するのは、それによって基本的な戒めが守れることを、はっきりと理解しているからです。

誠の信者は謙遜です。誠の信者は「柔和で心のへりくだった者」であり、地上で最も柔和な者のひとりだったモーセのように、「皆で……考えたこともなかりき」ことも喜んで学ぼうとします。(モロナイ7：44；モーセ1：7-11；民数12：3参照) すぐにいらだつことはありません。助言を無視することはありません。自分が人より「上」だなどと考えて、教会員やキリストの弟子としての通常の義務を怠ることもありません。また、「そんなことはみな、以前にしている」という理由で、そうした責任を拒むこともありません。王国に関する小さなことを怠りながら、自分は誠の信者であるなどと言えるのでしょうか。

誠の信者は、キリストの望まれることを喜んで行ないます。ひとりの青年が救い主に、子供のころから戒めをことごとく守ってきましたと言うと、救い主はこの青年に特別なチャレンジを与えられました。それは、帰って持っているものをみな売り払い、そのお金





**誠の信者は、喜んで王国の義務を
実践する。みずから進んで実践す
るのは、それによって基本的な戒
めが守れることを、はっきりと理
解しているからである。**

を貧しい人に施し、それから救い主のみもとに来て従いなさい、というものでした。この善良でりっぱな家柄の青年は、悲しみながら救い主のみもとを去って行きました。救い主から特に与えられたチャレンジにこたえられなかったからです。この青年は確かにイエスの教えに心を動かされてはいましたが、キリストの誠の信者とはなっていないのです。(マルコ10:21-22参照) 私たちも、自分のために特に与えられたチャレンジにこたえられなければ、同じことが言えます。私たちは主の導きを喜んで受け入れて、一層豊かな経験を積もうとしているのでしょうか。それともしりごみしているのでしょうか。当然ながら私たちは、自分の力ではできないと思われるような経験を乗り越えて、成長できるのです。

誠の信者は、バランスの取れた満足感を抱いています。つまり、現状に満足しすぎる思いと、もっと重要な役割を果たしたいという思いとの間に、適切なバランスが取れているのです。アルマはこう言っています。「私は主が私に許したもうたことだけで満足しなくてはならないからである。……私は自分が任せられた務めをするほかに何も望むことはないはずである。」(アルマ29:3, 6) 現実に与えられている機会だけで満足することは、確かに、大

きなチャレンジのひとつです。しかし、そうでなければ感謝の思いが薄れるだけでなく、周囲に奉仕の機会があっても、目が行かなくなってしまう。

誠の信者は、真心から祈ります。その祈りは心の思いそのままです。そして、主が言われた「汝はひたすらわれに願ひし時はこれを与えらるるならんと思へり」という言葉の意味をよく理解しています。だから、「心の中によく思い計る」(教義と聖約9:7-8)と同時に、忍耐と信仰と真実な思いとを持ち合わせているのです。誠の信者の祈りの中には、ときに、真に靈感を受けた祈りがあることも確かです。

誠の信者は、正しい理由に基づいて正しい行動を取ります。主との関係が完全に確立しているので、だれも見えないところでも、よい行ないを続けて行ないます。自分を誤解し、言葉じりをとらえ、曲解する人がいても、なお、そのような人々を愛し、彼らのために真心から祈ります。

誠の信者は、他人の成功を喜びます。霊的な意味でも、物質的な意味でも、自分より幾分でも優れた人がいれば、誠の信者は彼らに心からの称賛を贈ります。誠の信者は同僚を決してライバルとは考えません。

誠の信者は、赦しの中には忘れることも含まれる、ということを常に心に



PHOTOGRAPH BY CAROLYN SESSIONS ALLEN



PHOTOGRAPH BY WELDEN ANDERSEN

まこと
 誠の信者は幸福である。彼らは罪は犯さないが、罪に対して無知なわけではない。正しい理由に基づいて正しい行動を取る。また、たとえだれの目にも留まらなくとも、よい行ないを続けて行なう。

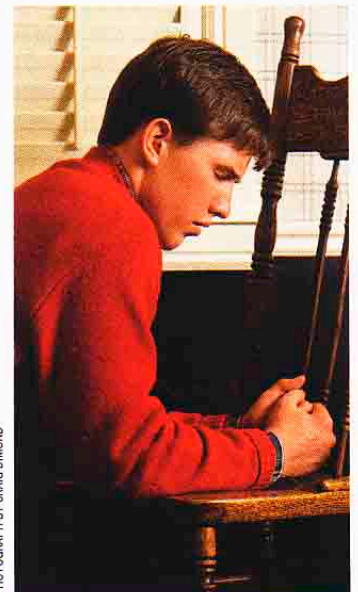
留めています。「主なるわれもはやこれを忘るべし」(教義と聖約58：42)と言われた、主の模範に従います。また、人が再び教会に戻ってすべての祝福を享受できるように、援助します。そして主と同じように、そういう人たちの過去の過ちについては決して口にしません。(エゼキエル18：22参照)

まこと
 誠の信者は罪は犯しません、罪に対して無知ではありません。心が温かい一方で、率直に物を言います。仲間を心から愛しています。また、影響力も発揮します。正しい生活を送っているために、いつでも天の力を引き出せるからです。

誠の信者は幸福です。キリストを真に信じる者は、決して惨めな表情はせず、憤み深い態度の中にも正しい行ないをしたいという熱意を秘めています。どのような生活を送るかという点では、いつも真剣に、しかし、明るく取り組みます。彼らの繰り出すユーモアは、希望あふれた控えめなユーモアであり、決して皮肉や中傷で空虚な笑いを誘うものではありません。その態度は静かで、天の加護に全幅の信頼を置いています。さらに、時の印を読み取りますが、決して落胆することはありません。それは彼らが「完全な希望の光を抱」いているからなのです。(IIニーファイ31：20)

このようなキリストの誠の信者になれるように、努力しようではありませんか。自分の弱さを認めつつ、私たちの到着を待つ神の町に向かって、正しく、確固たる決意で進んで行くではありませんか。その町の門を守るお方は、イエス・キリストをおいてほかにはいません。イエスが待っていてくださるのは、現世での私たちの生活を認めてくださるためだけではありません。私たちの到着を待ちたいという、神としての深い願いを宿しておられるからです。私たちが今、イエスを救い主として認めるなら、イエスは私たちが門の前に立つ日には、愛を込めて正しい生活を認めてくださるでしょう。

神が皆さんの世代を祝福してください。皆さんには、この時点では明らかにされていませんが、やがて大切な責任が与えられるようになることを、決して忘れないでください。皆さんはそのために今、備えなければならぬのです。皆さんは、この地上に来る前にふさわしさが認められ、与えられるチャレンジに立ち向かう力があるとして選ばれた世代なのです。皆さんが霊的に固く立つ決意をしてくださるよう、心から願っています。そのために、キリストの誠の信者となる道を、迷わずに進み続けてほしいのです。□



PHOTOGRAPH BY CRAIG DIMOND





TOP LEFT PHOTOGRAPH BY MARVIN K. GARDNER, TOP RIGHT PHOTOGRAPH COURTESY OF BRAIN BLUM, BOTTOM PHOTOGRAPH BY CARINA RAGOZZINE



左上——ブダペストを流れるドナウ川。

右上——新しいハンガリー語のモルモン経を受け取るパーチュの会員たち。

下——モルモン経を手にするマヒャール・バレリア姉妹とザポー・エルゼベト姉妹。

ハンガリーへの クリスマスプレゼント

ジェフリー・S・マクレラン

1991年のクリスマスまで、あと6日しかありません。天気予報は、雪が降り、東ヨーロッパの道路状況は悪くなると伝えています。旅行は控えるようにとの警告も出ています。けれども、ヨハネス・グートヤーは約束を守らなければなりません。たくさんのクリスマスプレゼントを届ける必要があるのです。

ドイツのフリードリヒスドルフに住むグートヤー兄弟は、教会で翻訳者として働いていますが、数カ月前、ハンガリー・ブダペスト伝道部のジェームズ・L・ワイルド伝道部長にある約束をしました。もうずっと以前に出版される予定であった、ハンガリー語のモルモン経がドイツに到着次第、自分の車に積めるだけ積んで、ハンガリーへ届けるという約束です。ハンガリー人を先祖に持つグートヤー兄弟は、ハンガリー人に対して特別な親近感を抱いていることもあって、この木曜日の午後、なんとか約束どおり、新しいモルモン経を届けたと思っていました。金曜日になると、ハンガリーの税関がクリスマス休暇に入ってしまうのです。彼はワイルド伝道部長とともに、「ハ

ンガリーの聖徒たちに、いつまでも心に残るクリスマスプレゼントを贈る」という共通の目標を達成しようと努力してきました。それは、ハンガリーの聖徒たちにとって、確かに予期せぬクリスマスプレゼントとなるはずでした。ワイルド伝道部長は会員たちにも、多くの宣教師たちにも、ハンガリー語のモルモン経がついにできたことを話していなかったからです。

最初、グートヤー兄弟は、9月にはこの旅行ができるだろうと考えていました。しかし、彼はこのように語っています。「9月になっても、モルモン経はまだ出来上がりませんでした。」

「まだ出来上がっていない」と聞かされるのは、ハンガリーの聖徒たちにとって珍しいことではありませんでした。彼らはハンガリー語のモルモン経を長い間待っていたのです。1990年2月に伝道に出たビクター・シボス長老はこのように述べています。「私が最初にハンガリーに着いた時、みんなはこう言っていました。『あと2、3カ月もすれば、ようやくモルモン経が届くよ。』ところが、『あと2、3カ月』

という言葉は、いつも『もう少し待てば』に変わってしまうのです。」

モルモン経がやっとほんとうに到着することになった1991年のクリスマスまでには、ハンガリーで教会が正式に認められて以来3年半、ハンガリー・ブダペスト伝道部が設立されて以来約1年半の年月がたっていました。聖徒たちは、ほんとうに長きにわたって待っていたのです。

83年間の夢

しかし、ハンガリー語のモルモン経がほしいという願いは、1980年代の末にハンガリーで最初の聖徒がバプテスマを受けるずっと以前からあったのです。それは少なくとも83年前にさかのぼります。

1908年のクリスマス直後のことでした。(つまり、ハンガリー語のモルモン経がついに出来るまでに、クリスマスを83回迎えたことになります) ユタ州ローガン出身のジョン・エンサイン・ヒル長老は、ハンガリー語を学び、ハンガリー語で伝道する最初の末日聖

徒の宣教師となりました。1 伝道中、ヒル長老は伝道用のパンフレットを翻訳し、ハンガリー語で開かれる最初の集会の司会をし、ハンガリー語で最初のバプテスマを施しました。そして、1910年11月、彼とハンガリーの友人は、ヒル長老の伝道における「最大の目標」、すなわちモルモン経の翻訳に取りかかりました。しかし、まだ100ページしか翻訳が進んでいない時に、伝道部長から翻訳を中断するように告げられたのです。その時、ヒル長老は日記にこう書きました。「命の半分を取り去られたような気持ちだ。」

間もなくヒル長老は帰還しました。その後4年足らずして、1914年に最後の宣教師がハンガリーを離れ、第一次世界大戦が始まりました。十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老が

ハンガリーの地を奉獻した1987年までにも、数人のハンガリー人が外国に滞在中バプテスマを受け、モルモン経の中の数カ所がハンガリー語に翻訳されました。しかし、ハンガリー国内ではそれ以上の伝道活動は行なわれず、モルモン経全部がハンガリー語に翻訳されることはありませんでした。

1980年代後半、ハンガリーで再び宣教師たちが働き始めると、彼らはヒル長老と同じ状況に直面しました。教えるための資料が不足していたのです。ハンガリー語で手に入るものは、モルモン経の抜粋のほか、50曲にも満たない賛美歌集と「福音の原則」などの基本的な資料がごくわずかあるだけでした。

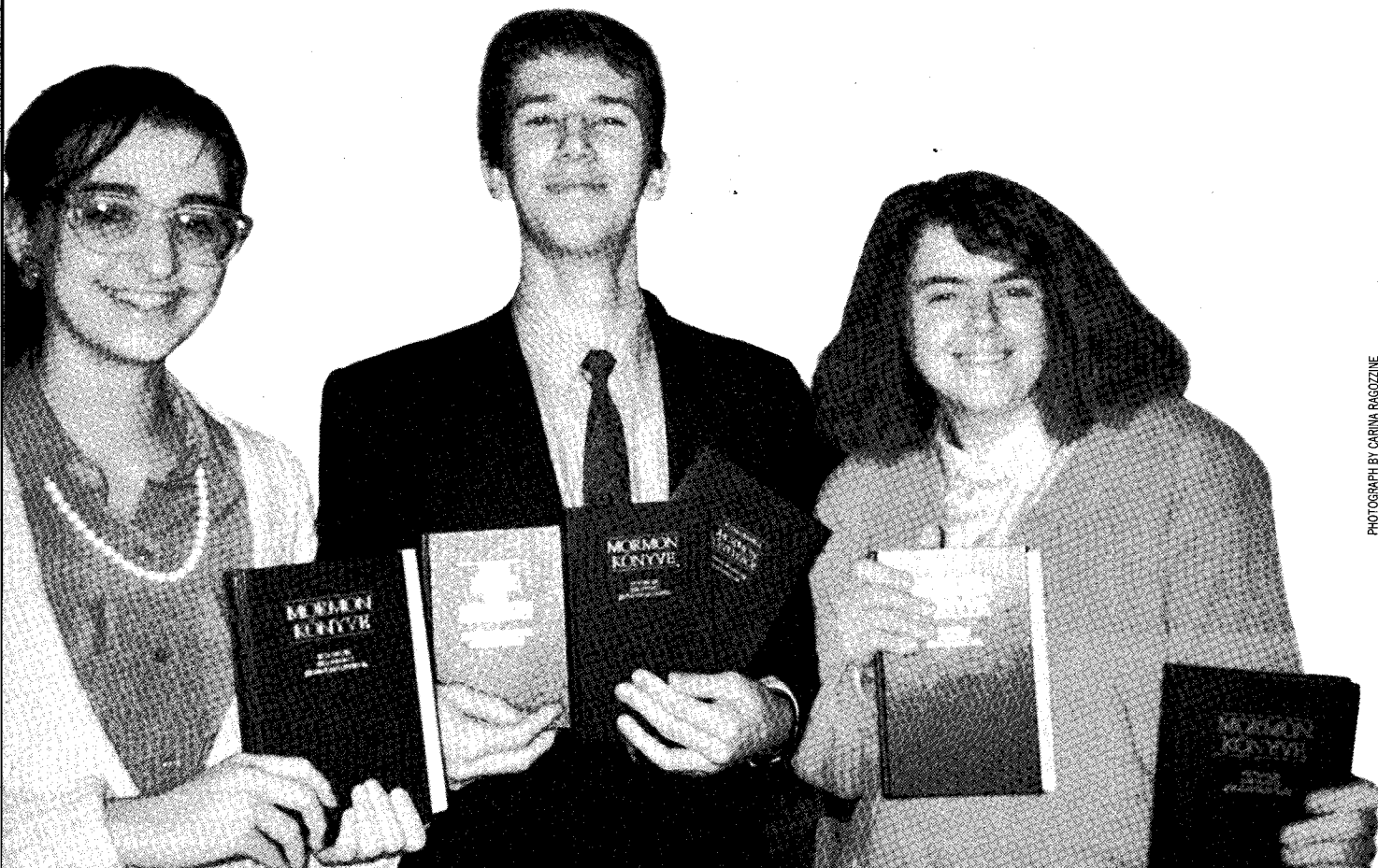
しかし、完全なモルモン経がないという制約にもかかわらず、ハンガリーの多くの会員たちは深い信仰により、

モルモン経への強い証^{あかし}を培っていきました。

グートヤー兄弟のクリスマスの旅

こうしてハンガリーの教会員は自分たちの信仰を表わしました。そしてついに、モルモン経がハンガリー語に翻訳され、出版されたのです。いまや、そのモルモン経がドイツからオーストリアを経由してハンガリーに届けられるかどうかは、グートヤー兄弟の肩に

クリスマスプレゼントのモルモン経を誇らしげに見せるバーボズ・ノーラ姉妹、カザク・タマス兄弟、フェギベルネキ・アグネス姉妹。(左から)



かかっています。それは、約1,000キロの旅でした。

木曜日の午後3時ごろ、グートヤー兄弟は1,600冊の新しいハンガリー語のモルモン経をワゴン車に積んで、旅路に就きました。午後9時ごろ、オーストリアの国境を越え、午前3時ごろにハンガリー国境を越えました。ジェルの町に着いたのは、具合よく、金曜日の朝早くでした。ところが、そこで難題が待ち受けていたのです。

ハンガリー国境で、役人はグートヤー兄弟に、ジェルの税関を通過してもよいと言ったのですが、当のジェルの役人はだめだと言うのです。グートヤー兄弟とジェルで伝道していたふたりの宣教師で何時間も交渉しましたが、うまくいきませんでした。そこで、グートヤー兄弟は何か助けが得られるのではないかと期待して、ブダペストへ向かいました。しかし、助けの手はすぐには差し伸べられませんでした。

まず、とうとう天気予報が現実になりました。グートヤー兄弟はこのように回想しています。「ドイツからオーストリアまでは、一片の雪も見かけませんでした。ところが、ジェルからブダペストに向かう間、特に高速道路に差しかかると、大雪になったのです。」吹雪などもともせず車走らせました。大して長くは降り続かなかったのですが、やはりスピードを落とさなくてはなりません。そのため、ブダペストに到着するなり第2の難関にぶつかってしまいました。税関に着いた時には閉館時間を過ぎており、その日は長い休暇を控えた金曜日でした。税関は1月まで開かないのです。

幸運なことに、グートヤー兄弟が到着すると、シボス長老とその同僚のクーエン・ダミアン長老が税関で

待っていてくれました。当時ブダペストで巡回宣教師として働いていたこのふたりの宣教師は、グートヤー兄弟がクリスマス前にモルモン経を配布するのをなんとかして助けようと決意していました。しかし、自分たちにできることはないかと役人に尋ねると、「何もない。1月にまた来なさい」という答えが返ってきました。

でも、1月では遅すぎます。クリスマスは終わってしまいます。シボス長老は、ユタ州モーガン出身ですが、ハンガリー生まれの両親の母国語を話しながら育ちました。彼は、あきらめずに、状況を説明しました。「これは宗教の本で、とても重要なものです。ぜひとも、クリスマスまでに配りたいのです。皆、何年もこの本を待ち望んできました。」

税関の役人は首を横に振り続けましたが、宣教師たちは心の中で何度も祈りながら、役人に例外を認めてくれるように頼みました。すると突然、役人の態度が変わりました。シボス長老はこのように回想しています。「ついに何かの力が彼の心を動かしたのです。そして、彼はこう言いました。『わかりました。そうしましょう。』」

税関の役人の心を変えるために、シボス長老は何を言ったのでしょうか。「彼を説得した主役は、私ではないと思います。急に彼の気持ちが変わったのは、何か別の力が働いたからでしょう。それは、みたまの力だったと思います。」

シボス長老はこのように続けています。「それまでいらしていた税関の役人は急に親切になり、本を配付してよいと言っただけでなく、『その本の出荷に関して起きる一切のことについて、私が個人的に責任を持ちましょう』とまで言ってくれたのです。」

こうして、グートヤー兄弟は、自分

の約束を守ることができました。1,600冊のモルモン経がハンガリーのブダペストに到着したのです。しかしさらに、会員たちが定例集会を開いている、ほかの10の町にモルモン経を配付しなければなりません。しかも、クリスマス3日前の日曜日に、突然のクリスマスプレゼントとして会員の手へ渡すには、あと1日、土曜日しか残っていません。そこで金曜日の晩、宣教師たちはホテルの駐車場でグートヤー兄弟と落ち合い、モルモン経を自分たちの車に積み、東へ、南へ、西へと向かいました。各地の宣教師にモルモン経を渡し、日曜日に教会の集会で、予告なしに発表してもらうためです。

待ちわびたクリスマスプレゼント

シボス長老とダミアン長老も、モルモン経を車に積んでほかの町へ運びました。彼らが旅の最後に到着したのは、ハンガリー東部のデブレツェンという町でした。彼らは12月22日の日曜日に教会の集会に出るため、そこにとどまりました。シボス長老はこのように述べています。「デブレツェン支部での聖徒たちの反応は、決して忘れられません。」

共産主義体制の間亡命し、バプテスマを受け、宣教師として故国へ戻ったハンガリー人のイストバーン・ベレンテ長老が発表をしました。その時デブレツェンで伝道していたカリナ・ラゴジネ姉妹は、彼がまず予言者の重要性、特にエズラ・タフト・ベンソン大管長について話をしたのを覚えています。ベレンテ長老は、モルモン経を読むようにというベンソン大管長のメッセージを強調した後、こう言いました。「皆さんがそのメッセージを受け入れるうえで役立つ、ささやかなプレゼントがあります。」そして、宣教師

たちはハンガリー語のモルモン経を配り始めました。

シボス長老はこのように語っています。「驚くほどの反応でした。泣いている人もいました。喜びの声を上げる人もいました。手をたたき始める人もいました。」

ラゴージェネ姉妹は、皆が静まり、モルモン経のすばらしさについて感想を述べたのを思い出し、このように語っています。「たくさんの人がモルモン経を見ずに教会に入りました。そして、ついにモルモン経を目にし、そのすばらしさを一層よく感じる事ができたのです。」

それから1、2時間たちましたが、デブレツェン支部の会員たちは部屋を出ようとしませんでした。それまで宣教師から話を聞くだけで、自分で読むことは一度もできなかったいろいろな話を夢中になって読んでいました。また、ほかの人の真新しいハンガリー語のモルモン経に互いに自分の証^{あかし}を書き、署名していました。

クラリク・イダ姉妹²はラゴージェネ姉妹の本にこう記しました。「この日に胸に満ちた喜びを、言葉で表わすことはできません。この瞬間をほんとうに長い間待ちわびてきたのですから。」

シボス長老の本には、フェギベルネキ・アグネス姉妹がこのように書いています。「うれしくてたまりません。……こんなにすばらしいクリスマスプレゼントをもらったのは初めてです。私たちににとってこのクリスマスがどれほど意義深いものかを、いつまでも忘れないでください。」

ラゴージェネ姉妹はこう語っています。「それは確かに時節にふさわしい最高のクリスマスプレゼントでした。」

ハンガリーじゅうで同じような反応がありました。ワイルド伝道部長はこのように述べています。「聖徒たちが

モルモン経をただ胸に抱き締めている場面も見受けられました。彼らは実に、長い間、この日を待っていたのです。英語かドイツ語のいずれかを話せる人を除き、ハンガリーのほとんどの会員たちは、モルモン経の抜粋を読んだだけで教会に入りました。モルモン経全体を読む機会はなく、アルマの息子の改宗やアンモンの伝道など、多くの話をこれまで読んだことがなかったのです。」

会員たちはそれまで読めなかった話について、時を惜しんで学びました。シボス長老によれば、セーケシュフェールパール支部のムレク・ジュリアーナ姉妹は、最初の週にモルモン経全部を2、3回読み終えたとのことです。ソンボトヘイに住むタクズ・ガポール兄弟も、似たような話をしてくれました。彼の支部には2日間のクリスマス休暇の間にモルモン経を全部読んでしまった姉妹がいるそうです。

ハンガリー南部のペーチュという町でのことです。モルモン経を受け取って最初の日曜学校のレッスンは、ニューファイ第一書第8章に記されたニューファイの夢をテーマにしたものでした。実はこの箇所は、これまでのモルモン経の抜粋には含まれていませんでした。ブライアン・ブルム長老はこう言っています。「会員たちはその話が大好きになりました。いつまでも黒板に集まってその光景を描いていました。」

ペーチュでは、特別なクリスマスの家庭の夕べでモルモン経が配付されました。ブルム長老は、ひとりの会員の反応を特によく覚えています。それは、3カ月ほど前にバプテスマを受けた、ズックス・クリスチナ姉妹でした。「彼女は立ち上がりずに、そのまま座っていました。私は、どうして彼女はモルモン経をもらっても、ただ手に持ったままうつつむいているのだろうと不思議

に思いました。でもよく見ると、彼女はモルモン経のいくつかの箇所を目で追いながら泣いていたのです。」

ベスプレームで伝道していた、ワシントン州レッドモンド出身のマイケル・マトヤス長老は、彼が最初に手渡したモルモン経のことをよく覚えています。6カ月ほど前に改宗したペテ・エバ姉妹に渡したのですが、彼女は、モルモン経の発表がある前に集会所を出なくてはなりませんでした。「私は彼女を引き止めて、こう言いました。「あなたが行かなくてはならないことは知っていますが、その前にお渡ししたいものがあるんです。」そして、モルモン経を渡しました。すると彼女は泣きだしてしまいました。それは私が渡した最初のモルモン経だったこともあり、私自身も強い感動を覚えました。」

ブダペストのクーコラ・サンドール兄弟はこのように回想しています。「完全なモルモン経を受け取るのはすばらしいことでした。再び生まれ、もう一度学校に通い始めるような気持ちでした。目の前に新たな広い視野が開かれたかのようでした。」

ワイルド伝道部長はこう述懐しています。「最も感動的な思い出のひとつは、教会員歴2年のある姉妹のことで、やっとモルモン経を目にすることができた彼女は、モルモン経を胸に抱き締めると、うれしさのあまりむせび泣いていました。」

1908年にヒル長老とともに始まった長い旅が終わりを告げました。ついにハンガリー語のモルモン経が、ほんとうに長い間、またほんとうに忠実に待ち望んでいたハンガリーの教会員の元に届けられたのです。そして今、彼らは感謝の気持ちに満たされています。デブレツェンのザボー・アグネス姉妹がシボス長老の本に記した次の言葉には、この本が届けられるまでの間に尽

力してくれた、すべての人々へ感謝の気持ちがよく表われています。「私の喜びを言い尽くすことはできません。……すべてのことに感謝します。」

3年後、タカズ兄弟はこう語っています。「私たちはあのクリスマスの晩にもらったモルモン経をまだ持っています。もう古くなり、使い込んでボロボロになっています。今は新しいのを持っていますが、最初にもらったモルモン経がいちばん好きです。」

モルモン経を紹介する宣教師、ナギー・エリカ姉妹（右）とパリンカス・ベルナデット姉妹。（左）ふたりは、母国ハンガリーで伝道するように召された最初のハンガリー人である。

「あんなにすばらしいクリスマスプレゼントをもらったことはありません。長年待った夢が実現したのです。」こう語るのは、ブダペストのヘベシ・アンドラス兄弟です。

ヘベシ兄弟のように、ハンガリーの聖徒たちにとって、ハンガリー語のモルモン経を受け取ることは、まさに夢の実現でした。またグートヤー兄弟にとっても、モルモン経を届ける役割を担えたのは、与える喜び、すなわちクリスマスの季節の喜びそのものでした。

あの1991年のクリスマスの旅からしばらくして、グートヤー兄弟は再びハンガリーのブダペストへ行きました。ある日バスに乗っていると、若い男性がバスの中で本を読んでいた。中央ヨーロッパや東部ヨーロッパではよく見かける光景です。その本はいかに

もよく読まれていることがわかりました。しかしよく見ると、驚いたことに、擦り切れた青い表紙には、ハンガリー語で「モルモン経」という表題が書いてあったのです。

クリスマスの季節の喜びが再び戻ってきました。1年ほど前にグートヤー兄弟が届けたクリスマスプレゼントは、今でも人々に喜びを与え続けていたのです。□

注

1. ヒル長老に関する話は、アイビー・フーパー・ブラッド・ヒル編さん、「ジョン・エンサイン・ヒル——日記と伝記資料」を参考にしました。

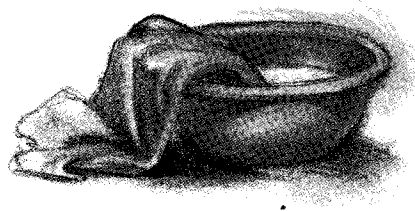
2. この記事では、ハンガリー人の名前は、ハンガリーの慣習に従って、姓を先、名を後に表記しました。



なぜ起こして くれなかったのですか

七十人

ジョン・H・グローバーク



宣教師時代、私はトンガでクリスマスを経過しました。トンガのクリスマスは1年のうちで最も蒸し暑い季節です。それでもクリスマスの精神だけは、毎年冬休みに故郷で感じていたのと同じでした。

トンガの人々は自分のことよりも周りの人たちのことを考えていました。至る所で音楽や歌が流れ、何もかもが平安と喜びに包まれたようでした。

だれもが、物質的な贈り物はあまりできませんでした。人にあげられるほどには、豊かに持っていなかったからです。しかしそのかわり、愛、奉仕、親切というかけがえない贈り物を与え合っていました。

クリスマスの数日前のことでした。休日を祖父母と過ごして来た9歳の少女が高い熱を出しました。彼女の祖父母は1日じゅう付きっきりで看病しましたが、熱は上がる一方でした。私たち宣教師は彼女を祝福するために呼ばれました。祝福をすると、「やがて快方に向かいます」と彼女に告げるようにという気持ちを感じました。それから私たちはそこを離れて、伝道を続けました。

クリスマスの前日、私は、教会が運営する地元の学校の教師とふたりでたくさん家庭を訪問しました。すべての訪問が終わって、「このクリスマスイブに、ほかにどこか訪問すべきお宅はありますか」とその教師に尋ねました。すると、彼はこう言ったのです。「オフア姉妹の孫娘が相変わらず具合が悪いそうなんです。おまけにおじいさんは用事で町にいないし。彼女も随分疲れているでしょう。どうです、今夜は私たちでお孫さんの看病を申し出てみませんか。そしてオフア姉妹には少し休んでいただきますよう。」

こう思ったものです。「それは名案だ。どうして私にはそういうことが思いつかないのだろう。」

日が暮れかかったころ、オフア姉妹の家にたどり着きました。看病を代わりた旨を話すと、オフア姉妹のひとみから感謝の気持ちが伝わってきました。彼女はしばらく私たちを見詰めてこう言いました。「あの子はひどく弱っているの。3日前から昼も夜も寝ずに看病してきたけど、また今夜も起きていられるか自信がなかったのよ。ありがとう。ほんとうにありがとう。」

オフア姉妹は、ぬれたタオルで熱を冷まそうとしたり、うちわで風を送ったりしていたことを説明してくれました。しかし、この2日間というもの、少女はうめき声を上げるばかりでした。

「この子はよくなるかしら。やっぱり私も一緒に起きて手伝った方がいいんじゃないかしら。」

すると同僚が言いました。「いいえ、どうかも休んでください。私たちがお孫さんにうちわで風を送り、額のタオルを取り替えますから。きっとよくなりますよ。おばあさんも少し寝た方がいいですよ。」こうしてオフア姉妹はようやく部屋に行きました。おそらく横になるとすぐに眠りについたことでしょう。

私たちはすぐにうちわであおぎ、額を冷やしにかかりました。容態はかなり悪いようです。息は荒く、熱も高く、目を閉じたまま痛まじうなり声を上げています。

そのうちに、ひとりがぬれたタオルを手で押さえ、もうひとりがタオル越しにうちわであおぐことで、口や頭の辺りに湿った涼しい風を行き渡らせることを思いつきました。その方法は大きく重労働には思っていないで



した。しかし、心配で胸を痛めながら、むっとする暑さの中で、水をくみ、布をぬらし、うちわであおいでいると、間もなくふたりともくたくたになってしまいました。

こんなに大変な仕事をオフア姉妹はたったひとりで3日間もしていたかと思うと敬服せずにはいられませんでした。

その部屋には古いねじ巻き式の時計がありました。その針が11時を指すころになって、ひと晩じゅう看病するには違う方法を考えるべきだと気づきました。すると同僚がまたいいことを思いつきました。「交替で看病したらどうでしょう。あなたが1時間寝たら私が起こし、今度はあなたが彼女の世話をしてその間に私が寝るのです。そしてまたあなたに起こしてもらって、という具合です。そうすればひと晩じゅう起きて世話できますよ。」

「それはいい。じゃあどっちから始めましょうか。」

「私が先にしますから、あなたが先に休んでください」と彼が言いました。午前0時になると、同僚は私を起こしてくれました。片方の手でうちわをあおいで、もう片方の手で額にタオルを当てました。この仕事を1時までして同僚を起こしました。彼も同様にして、2時に私を起こしました。3時になるとまた私が彼を起こしました。そして次は4時に起こされるつもりでいました。そのころにはかなり疲れがたまっていたのですが、同僚とふたりならなんとか夜通し看病できるだろうと思っていました。

ところが、次に目を覚まして私が見たものは、朝の明るい日差しでした。私はびっくりして飛び起きました。「わあ大変だ。今何時ですか。」

「6時です。」

「6時って。どうして4時に起こしてくれなかったのですか。」

同僚はにっこりとほほえみました。その笑顔は心の底から出たもので、その人柄がよく表われていました。「あなたがとても疲れているみたいだったからです。だからそのまま眠っていらおうことにしたんですよ。これ

が私のクリスマスプレゼントってとこですかね。メリークリスマス！」

私は何も言えませんでした。そして再びこう思いました。

「どうして私はそういうことを思いつかなかったんだろう。同僚は私の代わりに起きていてくれたんだ。」私は救い主のことを思い出しました。主は眠っている弟子たちの所に来られ、こう言われました。「あなたがたはそんなに、ひと時もわたしと一緒に目をさましていることが、できなかつたのか。」(マタイ26:40) 主はすぐそばで弟子たちが眠っている時に、人知では計り知れない大いなるみ業を、ひと晩じゅう起きて成し遂げていらっしやったのです。

私は少し恥ずかしくなりました。でも同僚の満ち足りた顔を見ていると、私もとても幸せな気持ちになりました。

同僚は私にクリスマスプレゼントを買って渡すことができませんでした。文字どおり、彼には物質的にあげられるものが何もなかったのです。その代わりに、彼は自分のできることで、つまり私を眠らせておくことで、惜しみなくプレゼントをくれたのです。

はたしてどれだけの人が、クリスマスの折に、そして1年を通じて、ただ単に物を贈るだけではなく、自分自身を完全に惜しみなく与えているでしょうか。ほんとうの贈り物はお金で買うものではなく、真心で与えるものなのです。

いつしか辺りが明るくなったころには、少女のうなされていようなうめき声も治まりました。熱も急速に下がり、峠を越えたことがわかりました。彼女はかすかに体を動かし、やがて目を開けました。

10時ごろまで看病を続けてから、ドアをノックしてオフア姉妹を起こしました。孫の容態が悪化したのでは、と案じた彼女は飛び起きて来ました。しかし来てみると、そこには孫娘が私たちと一緒に座っていたのです。皆がオフア姉妹に向かってほほえみ、声を合わせて言いました。「メリークリスマス！」□



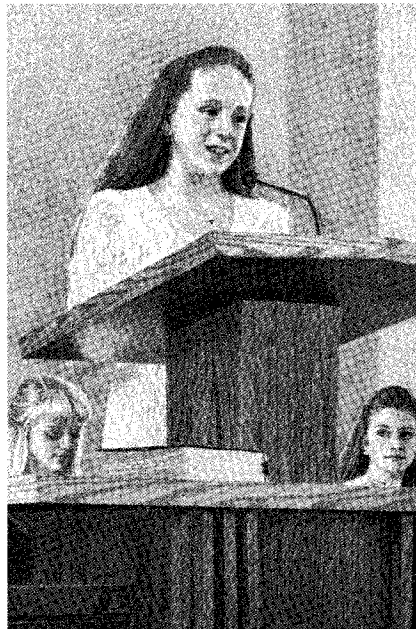
霊的な確信

最初の示現から3年余りたった1823年9月21日、予言者ジョセフ・スミスは、神のみ前で自分の立場と状態がどのようなものかを示してくださいるように祈りました。すると、彼の祈りにこたえるためにモロナイが遣わされました。その時の出来事について、ジョセフはこのように述べています。「以前に神の御顕れを受けたから、神の御示しを得る十分な確信があった。」(ジョセフ・スミス2:29)

ジョセフはいくつかの経験を通して、神が自分の祈りにこたえてくださることを学んでいたのです。ジョセフは主の勧告に従い、自分の証を守り通しました。迫害を受けながらも、示現を受けたことを主張し続けたのです。そして、神が求める者に「惜しみなく……与える」お方であると確信していました。(ヤコブ1:5)

正しい生活を通して神への信頼が増す

私たちは神の戒めを守って生活しようと努めるとき、みこころにかなった努力をする私たちを神は支えてくださるという信頼をますます強く持つようになります。ある姉妹は、ステーク部の青少年のためのハイキング活動を指導してもらえないかと頼まれた時、その割り当てを果たせるかどうか不安でした。戸外活動についてほとんど経験がなく、活動の下見のために予定コースを歩いた時はぐったり疲れてしまいました。しかし彼女は、熱心に助けを祈り求めた後、ハイキングに出かけました。彼女はこのように語っています。「ハイキングは全然苦痛ではありませんでした。間違いなく、神が祝福して



ILLUSTRATED BY SHERI LYNN BOYER DOTY

くださったのです。」

私たちの天父は、限りなくやさしいお方です。私たちが天父の戒めを守ると、天父は「直ぐに祝福を与え」てくださいます。(モーサヤ2:24)そして、天父のやさしさを思い起こすと、私たちは再び祝福され、天父への信頼が一層増すのです。もうひとりの姉妹は、ワード部の若い女性たちが聖餐会での発表に向けて準備するのを手伝うように割り当てられました。最後の練習は混乱のうちに終わったにもかかわらず、彼女は心に平安を感じました。こう述懐しています。「私たちは一生懸命に練習しました。神の僕を通して、神によってこの割り当てに召されたのですから。これまでも似たような状況にあって祝福を受けてきたので、今回も神を信頼すればいいんだと思っていました。そして発表している間、私たちはみたまを感じました。」

●これまで、どのような経験を通して信仰が強められましたか。

神を信頼するなら私たちは強められ、
どんな困難な問題も解決できる

時折、直面する問題があまりに大きくて解決できないように思うことがあります。弱さを克服したり、苦難を堪え忍んだりする勇気や力が、自分には足りないように思われることもあります。エズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように勧告しています。「私たちは……神の助けがなくては成功できない。しかし、神の助けがあれば、神が私たちに行なうよう求められることは何であろうと成し遂げられる。しかも、確信と信頼、穏やかな心をもって行なえるのである。」(「エズラ・タフト・ベンソンの教え」p.69)

ユタ州プロボに住むセルマ・ボーラム・ディヤング姉妹はかつて、ご主人を癌で亡くし、自分自身も健康を損ねましたが、そのつらい時期を乗り越えました。彼女はこう述べています。「何か月もの間、私が背負っていた重荷がどんなに重いものかは、慈悲深い主だけがご存じです。いつも心の中で祈り、雄々しく苦難に立ち向かい、終わりまで最善を尽くして献身する勇気を与えてくださるように懇願しました。絶えず主が助けてくださったからこそ、長い間病床にあった愛する夫に献身的に仕えることができたのです。まことに神は祈りを聞き、こたえてくださいます。」

●これまでの人生で、苦難に遭ったとき、どのような面で信仰が支えとなりましたか。□



M. J. R.

ポルトガルでの 聖夜



バンデル・フェレイラ・デ・アンドラーデ

その年のクリスマス、ポルトガルにいた私たちはゾーンのほかの宣教師と集会を開きました。プレゼントを交換するなど、ともに楽しい時を過ごしましたが、その雨も集会所となったポルトの教会堂内に満ちるクリスマスの精神を損なうことはありませんでした。ただ、何かがひとつ欠けているような気がしました。同僚の宣教師とよく考えた末、今すべきなのは、求道者の家を訪問し、クリスマスソングを歌うことだという結論に達しました。宣教師全員がこの考えに賛成し、すぐにレインコートと傘、聖典、そして賛美歌集を手に取り、礼拝堂を後にしました。

私たちが最初に訪問した人々は、町の中心近くの、廃屋となった修道院に住んでいました。彼らはポルトガル人の家族で、以前はアフリカに住んでいましたが、アフリカ国内で起きたいくつもの紛争のために、やむなくポルトガルまで逃れて来たのでした。アフリカでは裕福な家族だったのですが、いまやすべてを失ってしまったのです。

修道院にたどり着くと、私たちは、彼らの住む部屋に向かって階段を上り

始めました。しかし階段の木は古く、歩くたびにきしむので、ひょっとして彼らに警戒心を起こさせ、突然行って喜んでもらおうという計画が台無しになってしまうのではないかと考えました。そこで私たちは、中庭の真ん中辺りに立ちました。屋根から大粒のしずくが私たちの頭の上にしたたり落ちてきました。

歌い始めると、人々が目を輝かせ、うれしそうな顔をして、姿を現わし始めました。いつものように子供たちが最初に、そしてしばらくして両親が出てきました。やがて、修道院に住む人人が皆、部屋から外へ出て来ました。私たちと一緒に歌いだす人たちもいましたが、歌詞を全部は知らない様子でした。雨があたかも歌の伴奏をしてくれているようでした。そのうち、私たちは皆キリストにあって真の兄弟姉妹なのだ、みたまが証するのを感じました。宣教師たちの目から涙がこぼれ落ち、雨と混じり合いました。涙で賛美歌集が見えなくなり、歌声が途切れしました。

それから彼らの所に駆け寄りました。私たちは教会のパンフレットを何冊か

あのクリスマスの夜、聖なる歌と個人的な証^{あかし}を分かち合うことは、貧富の差、国籍や信仰の違いに関係なく、どんな人にとっても何よりの贈り物だと知った。

渡し、求道者にレッスンを続けて受けるよう励まし、全員を教会の集会に招待しました。

次に訪問したのは、ポルトの町にあったアメリカ領事の家でした。私と同僚は彼と彼の家族を教えていました。この家族は金持ちで、町でいちばん裕福な人々の住む地区にある大きな家に住んでいました。私たちがこの屋敷の門まで来たところで、使用人たちが私たちに気づき、中に入れてくれました。やがて私たちは玄関のドアの前に立ち、たった今修道院に住む貧しい人たちのために歌ったのと同じ歌を歌いました。

私たちキャロリンググループは、ブラジル、ポルトガル、アンゴラ、アメリカ、カナダ、パラグアイ、コロンビアなど世界のさまざまな国からやって来た20人以上の宣教師から成っていました。ちょうど最初の歌の2番目の歌詞を歌いだそうとした時にドアが開き、中から何十人もの人たちが出て来て一緒に歌いだしました。彼らは全員クリスマスを祝うためにそこに集まっていたいくつかの国の外交官でした。彼らの顔にも、あの廃屋となった修道院に住む人々の顔に浮かんだのとまったく同じ涙とほほえみが浮かんでいました。

私たちが歌い終わると、領事の奥さんがこのように言ってくれました。「ここに集った私たちには、自分たちを幸せにしてくれるあらゆるものに恵まれているはずなのに、何か欠けていると感じていました。ちょうどそんな時にあなたたちが来てくださって、イエス・キリストのクリスマスの精神をもたらしてくれました。私たちのクリスマスは今完璧なものとなりました。」

私たちは中へ入るよう招待され、一人一人の宣教師が自分の言葉で自分の国からやって来た外交官に証^{あかし}を伝えました。修道院でしたように、私たちはパンフレットを渡すと、レッスンを聞き、教会に出席するよう招待しました。

あのクリスマスの夜、聖なる歌と個人的な証を分かち合うことは、貧富の差、国籍や信仰の違いに関係なく、どんな人にとっても何よりの贈り物だと知りました。その夜、この貴い贈り物は、主のみたまを私たちの心に注いでくれました。このみたまこそが、すべての贈り物のうち最も価値ある贈り物なのです。□





彼が予言者だなんて

アルファ・R・カルーヨ

ふ たちの外国人宣教師がフィリピンの我が家を訪れたのは、私が9歳の時でした。私は彼らの身だしなみのよさと親しみやすさに好感を持ちましたが、話していることはひとつもわかりませんでした。ふたりは英語で教えていたので、学校の教師をしていた父と母しか理解できなかつたのです。

母がモルモン経を投げ出して、もう読みたくないと言った日のことを、今もよく覚えています。母はどこかで、教会について真実でないうわさを聞いて来ました。そのため、父が宣教師から福音を学んでいることに不安を抱いたのです。

父はただモルモン経を拾い上げて、穏やかな声でこう言いました。「心を開いて、教えに耳を傾けてみなさい。この本は真実だよ。読んでごらん、真実だってわかるから。」

それからの経緯ははっきりとはわかりませんが、6カ月後、母が「家族みんなでバプテスマを受けるわよ」と言った時には驚きました。私は教会のことをほとんど知りませんでしたし、もう一度バプテスマを受けるのは気が進みませんでした。でも、両親に逆らうわけにもいかず、結局私もバプテスマを受けました。

そんな私にとって、ジョセフ・スミスはずっと大きな悩みの種でした。彼が神の予言者であると信じるのがどうしてもできなかったのです。だれかが彼について教えるときにはいつも、「それは真実じゃない！」と叫びだしたくなったものです。でも、そんなことを口に出せるはずはありません。ですから、証をするように頼まれると、



JOSEPH SMITH, BY EDWARD T. GRIGWARE

ほかの会員が以前証していた言葉を繰り返していました。

ジョセフ・スミスが神の予言者であることは信じられなかったものの、教会の教えのいくつかは信じていましたし、教会に行くことも楽しみにしていました。ただし、第一安息日は別です。何度も何度も、会員たちがジョセフ・スミスは予言者であると証するのを聞くにつれ、私はいらいらしてきました。とうとう腹を立てて、教会に行きたくないと思うまでになってしまいました。何かと理由をつけては行かないでいようとしたのですが、父は、だれひとりとして子供たちが日曜日に家に残ることを許しませんでした。

私が14歳ぐらいになると、父は私をセミナーに登録しました。私はとにかく嫌でした。興味などありませんでしたし、無理やり行かされるように感じました。最初の授業にはわざと遅れて行きました。でも驚いたことに、礼拝堂にいたのは管理人のセディヨ兄弟だけでした。彼は、私のセミナー教師としてその場にいたのでした。

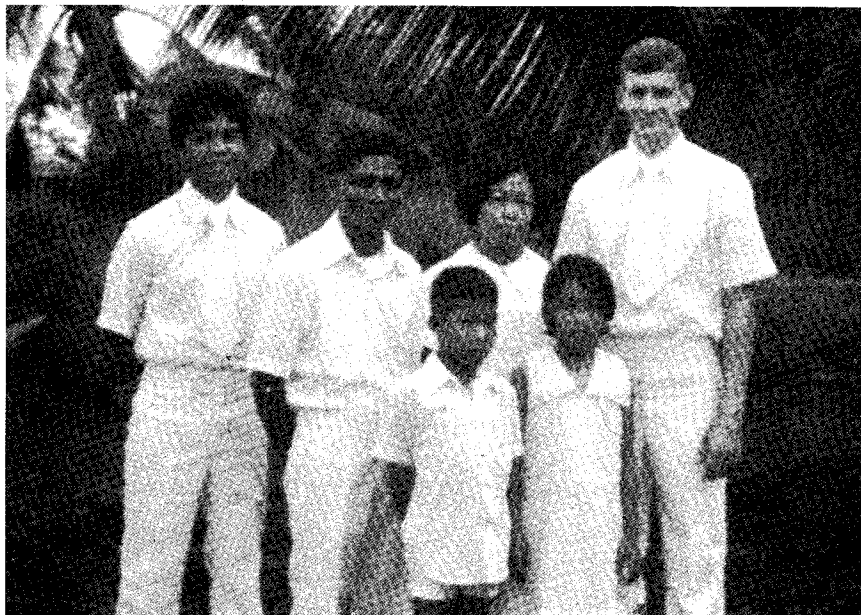
ほかの生徒たちがやって来ると、セディヨ兄弟は尋ねました。「皆さんの中で、モルモン経を読んだことのある人はいますか。」だれも答えませんでした。彼はモルモン経を開くと、「ニーファイ第一書第1章の1節から一緒に読みましょう」と言いました。その日、私の教師であるセディヨ兄弟がほかにどんな話をしたか覚えていませんが、モルモン経についての彼の力強い証だけはよく覚えています。私は心を動かされ、家に向かう途中、とても幸せな気持ちに満たされていました。なぜそのような気持ちになったのかは、わかりませんでした。

その晩私はモルモン経を読むことにしました。夕飯の後、私はよく理解できるようにと祈ってから読み始め、真夜中まで読み続けました。読み進めると、モルモン経の登場人物の各場面での行動が、まるでテレビでも見ているかのように頭に浮かんできました。わからない言葉もいくつかありましたが、モルモン経の中の予言者たちが真理を証するためにさまざまな苦難を堪え忍ぶさまを読んでいくうち、涙がほおを伝いました。そして、予言者と同じことをしている会員たちに対して、自分はずっと腹を立てていたのだと気づきました。予言者たちを迫害した者たちの仲間に加わっている自分の姿が心に浮かんできて、自分がいかに恩知らずだったかもわかりました。

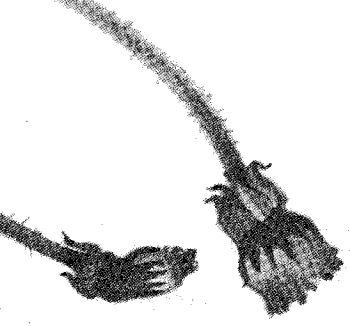
翌日も夜が更けるのも忘れてモルモン経を読み続けました。読み終えるまでは眠れなかったのです。ようやく本を閉じた時、私はひざまずいて神に赦しを請いました。祈りの中で私は、

モルモン経が真実であると知っていません、と証あかししました。そして、もしモルモン経が真実であるならば、それを翻訳したジョセフ・スミスは神の予言者であったことも自分は知っているのだと悟りました。「アーメン」と言った時、私の顔は涙でぬれ、心は平安と喜びに満たされていました。

この経験は、後に私がフィリピン・セブ伝道部で専任宣教師として働くようになった時に大いに役立ちました。この経験のおかげで、求道者たちがジョセフ・スミスやモルモン経について抱く疑問をもっとよく理解できました。今でも私の心は、神が私と家族に与えてくださった大きな祝福に対する感謝の気持ちでいっぱいです。□



上——カルーヨ家族のバプテスマの日。アルファと弟のアレクシャス、後ろが両親のエディルベルトとアリシア。宣教師のジョン・デニス・コルニエス長老（左）とプレストン・ディール長老とともに。下——後にアルファ（右）はフィリピン・セブ伝道部で伝道した。



たんぽぽに 見いだした答え

ミリー・フリッツ・レイエス

ある日、3歳と4歳になるふたりの娘を連れて散歩に出かけました。美しい家々や、色とりどりの花が咲く庭の前を歩きました。高い木々の周りに野性の花々が咲き乱れているさまも、すばらしい光景でした。

そして娘たちは、まるで小さな太陽のように咲き誇っているたんぽぽを見つけ、1輪ずつ摘み取りました。娘たちの喜びもつかのま、黄色い花はみるみる色あせてしぼんでしまいました。

「どうしてお花を摘んでしまったの？」大切なことを教えられるよい機会になると思い、尋ねました。

「だってとてもきれいだったんだもん。」ふたりとも大きな声で答えました。

「今はどう？きれいかしら？」

「きれいじゃないわ。」上の娘が答えました。「もう捨てちゃって。」

私は、自然というものは、触れずにそのまま観賞するのがいちばんよいことを説明しました。生物は根を切られてしまうと、弱って死んでしまうということも話しました。娘たちは納得したようでした。

娘たちは遊びに出かけましたが、私はその小さな花について思いを巡らしていました。そしてあまり教会に活発でない人々について思い起こしました。彼らの証は、困難な時期を乗り越えていくのに必要な栄養をじゅうぶんに得られませんでした。そして、私たちの証も信仰に根ざしておらず、絶えず栄養を与えられなかったとしたら、

たやすくしぼんで消えうせてしまうだろうと思いました。

その時突然、胸が高鳴りました。花のたとえからたどり着いたこのような考えこそ、ずっと私が悩んできたことへの答えだと気づいたのです。

当時、夫は教会から遠ざかっていました。さらに、私自身も教会に行くのをやめようかと真剣に考えていました。その方がふたりの間に葛藤がなくて済むと思ったのです。ほんの一時期だけならかまわないだろう、とも考えました。とはいうものの、祈りを通して、どうするのが正しいか知ろうと努力していました。そんな私に、今、天父は答えを与えてくださったのです。

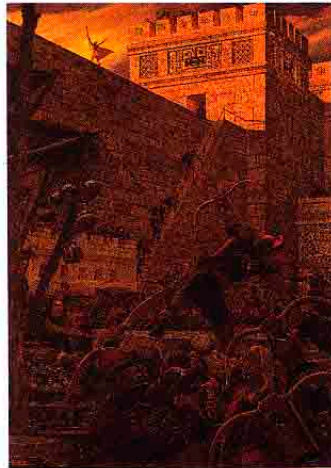
その晩夫が帰って来ると、私は昼間の散歩について、そしてたんぽぽについて話しました。そしてこう付け加えました。「私があなたを心から愛しているとすれば（もちろん主人は私の愛をじゅうぶん感じていました）、それは大いに教会のおかげなの。教会で思いやりと関心をもって人から接してもらっているおかげなのよ。」確かに私は、毎週日曜日に主の花園で、主のみたまと兄弟姉妹の愛により栄養を与えられています。日々聖典を読むことで、水を注がれています。これらすべてのおかげで、私は夫を愛し、夫から愛されるような女性でいられるのです。

夫は平安な気持ちに包まれた印であるかのように、ほほえみ、キスしてくれました。私は、2輪のたんぽぽがその日教えてくれたメッセージに感謝しています。□





モルモン経に 記された クリスマス



聞き覚えのある、古くからの友人の声のように、ルカの言葉が力強く心に響いてきます。「初子……飼葉おけ……羊飼たちが夜、野宿しながら……いと高きところでは、神に栄光があるように……。」これらは見なくとも言えるほど、なじみの深い言葉です。

それでは、ニーファイの言葉はどうでしょう。ニーファイは救い主の誕生をその600年も前に示現で見ました。レーマン人サムエルの勇敢な予言はどうでしょうか。邪悪な者たちが矢を放つ中、彼は来るべき光を予言しました。ニーファイ第三書に記された心打つ言葉はどうでしょうか。救い主は苦難のただ中にある予言者に慰めの言葉をかけられました。「頭をあげよ。元気を出せ。……われは……明日世の中に来らん。」(IIIニーファイ1:13)

モルモン経は慰めと励まし、そしてキリストについての力強い証に満ちています。これから数ページにわたって、すばらしい聖句を皆さんと分かち合いたいと思います。これらの言葉をよく味わってください。ルカの言葉と同じように慣れ親しんでください。また、モルモン経を開き、あなた自身で好きな聖句を見つけ出してください。モルモン経は神からあなたへの贈り物なのですから。

サムエル(上)とニーファイ人の予言者たちは救い主の誕生(左)と地上でのみ業について詳細に予言した。彼らの言葉は、神が世に与えたもうた最も偉大な賜、すなわち神の独り子についてのもうひとつの証である。



イエスはエルサレムで亡くなられ(上)、復活されてから間もなく、新大陸の人々にみ姿を現わされた。(右) 彼らは予言を信じ、イエス・キリストをその信仰の基としていた。

イテル3：9，14，16

「すると主は〔ジェレドの兄弟に〕『汝の信仰厚き故に、われはわれがこの後血肉を受くる事実を汝に見せたるなり……』と仰せになった。……

『見よ、われはわが民を贖うために創世の前より備えられたる者なり。われはイエス・キリストなり。……

今汝が見るこの体はわが霊体なり。われはわが霊の体にかたどりて人を造れり。われは今わが霊のまま汝に現われると同じ形の肉体を具えてわが民にもまた現われん。』」

I ニーフアイ10：4

「まことに、私の父がエルサレムを去った時から六百年の後、主なる神はユダヤ人の中に一人の予言者すなわち一人のメシヤ、言葉をかえて言えば一人の世の救い主であるメシヤを起したもう。」

ヒラマン14：3-5

「その降臨の時のしるしとして私は次の事をあなたたちに知らせる。ごらん、いくつかの大きな光が空に出て、神の御子が降りたもう前の夜は暗がなくてあたかも昼のようになる。

そこで二昼一夜の間、あたかも一日のように明るくて夜の暗さが無い。…これこそ神の御子が降誕したもう前夜に現われることである。

またあなたたちが見たこともない不思議な新しい星も現われるが、これもまたあなたたちにとってしるしになる。」

I ニーフアイ11：14-15，18-20

「この時私は天の開くのを見たが、一人の天使が天降ってきて私の前に立ち『ニーフアイよ、汝は何が見えるか』と仰せになったから

私は、一人の処女が私に見える、そ

れはどんな処女にも勝って美しくまた麗しい処女であると言った。……

すると天使は『見よ、今汝が見る処女は肉体に宿りたもう神の子の母である』と教えて下さった。

私はそれからその処女が『みたま』につれて行かれるのを見た。その処女が『みたま』につれて行かれてからしばらくして天使が私に『見よ』と仰せになったから、

私が眺めると、その処女がまた見えてこのたびは一人の幼児を抱いていた。」

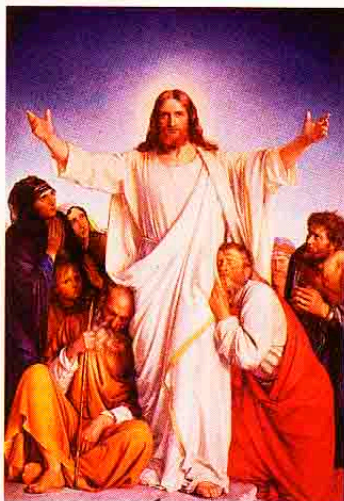
モーサヤ3：8

「このお方は神の御子、天地の父、創世の時から万物を造りたもうている造り主イエス・キリストと呼ばれ、その母はマリヤと呼ばれる。」

アルマ7：11-13

「この男の子は世の中へ出て苦難と





旧大陸（上）においても、新大陸（右）においても、キリストはみもとに来るすべての人々に、永遠の命と永遠に朽ちることのない愛を与えると約束された。その約束は、時空を超えて、今日も続いている。

あらゆる誘惑である試みとを受けたもう。これは、この方が自分でその民の苦しみと病いとを引き受けると言いたもう言葉が成就するためである。

この御方はその民を縛る死の縄目を解くために甘んじて死を受けたまい、また肉体をもつ者として慈悲の心に富みたまい、……民と同じく虚弱を受けたもう。

……神の御子はその民の罪を負い、自分が贖う力によって民のとがあやまちを取り消すために肉体に苦痛を受けたもう。」

II ニーファイ 25 : 26

「私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを予言し、また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」

III ニーファイ 1 : 13

「頭をあげよ。元気を出せ。予言の成就する時は近づきたり。今夜そのしるし現わるべし。われはわが聖き予言者の口を借りて言い伝えたるすべての事を必ず成就せしむることを世の人々に証明せんために明日世の中に来らん。」

III ニーファイ 9 : 22

「この故に、悔い改めて幼児のごとくわれに来る者は、われことごとくこれを受け容るべし。かかる者はすでに神の王国に居る者と同じなればなり。見よ、われはかれらのために一度わが生命を捨てて、また生命を得たり。故に、世界の隅々に至る者たちよ。悔改めをなし、われに來りて救いを受けよ。」□



CHRIST THE CONSOLATOR. BY CARL HEINRICH BLOCH. SUPERSTOCK. JESUS CHRIST VISITS THE AMERICAS. BY JOHN SCOTT





新たな航路を進む ミクロネシアの聖徒たち

R・バル・ジョンソン

ひとりの男性が緩やかな波の動きを体を感じながらカヌーの船底に横たわっています。波の一つ一つがメッセージを運んできます。最後にぶつかったのはどの島か、どんな波と交わってきたのか……。訓練と経験により波を知り尽くしている彼は、波から自分の現在地を知るすべを知っています。そして現在地さえわかれば、帰る家の位置もすぐにわかるのです。

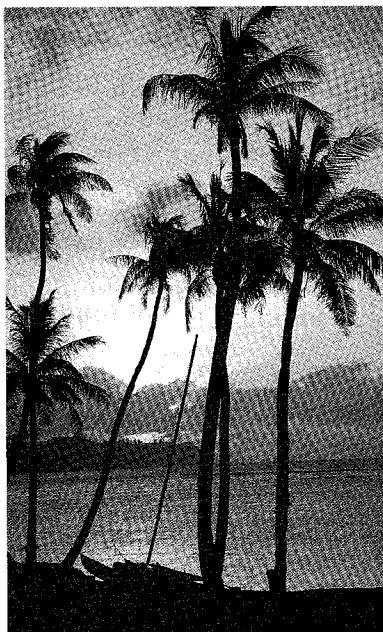
現在では、海の様子で航路を知ることのできる島人は少なくなりました。これも、ミクロネシアが、変わりゆく文化という名の潮流に長くほんろうされてきたことの表われです。この潮流は、島の浜辺に打ち寄せるどんな波よりもはるかに強く激しい流れなのです。

「なんじ汝らの神にして主なるわれが……

海の島々に住む者のことを
忘れざるを知らずや。」

……(IIニーファイ29:7)……

ミクロネシアは太平洋のほぼ中央にあって、その島々は1,164万9,000平方キロ（全ヨーロッパより広い）の地域にわたって広がっています。しかし、その総陸地面積はわずか3,227平方キロ（ルクセンブルクの面積に相当す



ポナベ島のリック・ジョエル（左）は、宣教師たちの手伝いをするうちに証^{あかし}を得た。（上）夕暮れのグアム。

る）しかありません。しかも、2,200の小さな島や環礁のうち、人が住んでいるのは125にすぎません。これらの島々は、政治的には、マーシャル諸島共和国、ミクロネシア連邦（おもにカロリン諸島から成る）、パラオ共和国、アメリカ合衆国領グアム、北マリアナ連邦、ナウル共和国、キリバス共和国（前ギルバート諸島）という、7つの地域に分かれています。このほかにも、ウェーク環礁やジョンストン環礁の島々など、いくつかがアメリカ合衆国

領となっています。

何千年の間、ミクロネシアの生活にはほとんど変化がありませんでした。気温の変化が少なく、陸地で栽培される果物、葉菜や根菜に加えて、礁湖で捕れる魚も豊富でした。群島の中には干ばつに悩まされた所もありましたが、ほとんどの島は雨に恵まれて1年じゅう緑に覆われてきました。

病気による苦しみや死、それに海の危険は常にありましたが、人々は家族と隣人どうしの固い結びつき、それに助け合いという伝統を大切にしてきました。女性が土地の権利を所有し、男性の中から首長が選ばれました。大工仕事や釣り、農業、医薬の技術が尊重され、近隣の島々の間では工芸品の交易が行なわれていました。人は皆、家族と部族に属し、それぞれ自分の果たすべき役割を自覚していました。

今日、変化の波が津波のようにミクロネシアを襲っています。政治や商業の中心部から遠く離れた島では今も先祖伝来の暮らしが続いているものの、都市部に住む人たちは新しい社会という激しい潮流と戦っているのです。何世紀にもわたるさまざまな国の支配によって、古来の文化は破壊されました。近年になって、福祉政策による配給が



ジム・エリス、ジュリー・エリス夫妻と娘のメーガン。(上) エリス夫妻の力添えにより、マグリナ・サム・アイテン(次ページ、赤ん坊を抱いている)はサイパンからフィリピン、マニラ神殿への参入を実現した。

島民たちの自立心に深刻な打撃を与えてしまいました。政府が効率的な生産と消費の拡大を唱道しているため、伝統的技術は失われつつあります。そして食生活にますます輸入食品が多くなったことから、糖尿病が健康上の大きな問題となっています。アルコールとたばこも生活に深刻な影響を及ぼしています。島によっては自殺が若い世代の死亡率のトップを占めています。これらの若者は、社会の変化に順応できず、行く所もすることもないうまにさまよっているのです。

もちろんすべての変化が悪いわけではありません。まだその恩恵に浴する人は少ないながらも、近代医学は延命と苦しみの緩和に貢献していますし、

教育の機会もより与えられるようになりました。そして、家族の固い結びつきと地域社会の結束は、今も生活の一部として残っています。

しかし、それよりも重要なのは、過去数十年にわたって末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちが島々にもたらしてきた福音のメッセージです。主はこの大海の島々を愛しておいでになり、主の教会はこの混乱の時代に安全な航路を示しています。福音が広まるにつれて、より多くのミクロネシア人が人生における自分の位置を知り、天の家に向かって針路を変えているのです。

「女性の美德は顔だけにあらず」
 …(トラック島のことわざ)…

マグリナ・サム・アイテンがフィリピンのマニラ神殿でエンダウメントを受けるに至った経緯には、ミクロネシアの人々が主のみもとに来るために、物理的にも文化的にもしばしば大きな距離を克服しなければならぬことがよく表われています。トラック島に住んでいたころ、マグリナは宣教師の訪問を受け、ジョセフ・スミスについてある質問をしました。こう述懐しています。「その時の彼らの答えに感動し、福音を教えてくれるよう頼んだのです。」

彼女はモルモン経を読んで福音の証^{あかし}を得ましたが、その証のためにご主人との関係が気まづくなってしまいました。彼は宣教師の訪問にも反対するようになりました。宣教師が断食について教えた時、マグリナは初めての断食をご主人のためにすることにしました。「私はみたまを感じ、夫の心は和らぎました。」こうして彼は宣教師がマグリナと子供たちにレッスンを続けること

を許可してくれたのです。「それから1カ月後には、夫もレッスンに加わるようになりました。そして1986年の1月、私と夫といちばん上の子は、そろってバプテスマを受けたのです。」

マグリナの母親も教会に集うことにより感情を抱いていませんでした。「母は私が教会に入ることに反対して、もし教会に入ったならもう娘とは思わないと言いました。」個人的な感情より家族の関係を重んじる社会にあって、その言葉は胸に突き刺さりました。



「でも私は、子供たちにおばあちゃんのために祈るようにと言いました。」3カ月して、母親はマグリナを訪ねて来て、週末をともに過ごしました。

月曜日に家族で家庭の夕べをしました。「母はとても静かでした」とマグリナは言います。「娘が閉会の祈りをしました。祈りが終わると、子供たちは皆母を抱き締めてキスをしました。母は目に涙を浮かべて言いました。『これは子供たちを育てるにはよい方法かもしれないわね。あなたが小さ

かった時とは大違いだもの。』私はそのとおりだと答えました。子供の時の私は祈り方さえ知りませんでしたが、私の子供たちは自分がどう行動すべきかを知っているからです。」

それから間もなく、マグリナは約1,300キロ離れたサイパンに引っ越しました。サイパンはまるで人種のるつぼのようです。北マリアナ連邦にある大きな島(幅23キロ、長さ8キロ)で、太平洋全域や遠くはアメリカ、ヨーロッパ出身の人々が定住あるいは働き

に来ているのです。サイパンは日本人に人気のある観光地になり、フィリピン人や韓国人が繊維関係の工場に働きに来ています。ミクロネシアのほかの地域の出身者には、ミクロネシアの伝統と西洋の近代的なライフスタイルが程よく混じり合ったこの島は魅力的に映るようです。

マグリナはサイパンで、アメリカ本土出身のジム・エリスと奥さんのジュリーと知り合いました。ジムはマグリナのホームティーチャーで、ジュリー



は訪問教師でした。1992年のこと、ジムはマグリナに神殿に行くように勧めました。マグリナは行きたかったのですが、当時ご主人が亡くなって彼女は再婚していました。新しい伴侶は教会員ではなく、マグリナが神殿に行くことに反対していました。結局、意見の不一致のためふたりは別居することになりました。

マグリナがマニラに出発する前の日になって、ご主人が戻って来ました。「夫は玄関に入って私の顔を見るなり、私の気持ちが変わっていないことに気づきました。私は夫を愛していましたが、子供たちも愛していたので、子供にとっていちばんよい道を選びたかったのです。夫は神殿行きを許してくれました。そして、家の中で禁酒禁煙することまで約束してくれたのです。

こうして私は神殿に出発しました。エリス姉妹が同行してくれました。私はみたまを強く感じ、すべてに感動しました。」その時最初の夫のための神殿の儀式も執行してもらうことができました。

箴言は徳ある女性を宝石よりも貴いとほめたたえています。「力と気品とは彼女の着物である、そして後の日を笑っている。……

その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う……

主を恐れる女はほめたたえられる。(箴言31:25, 28, 30)

ミクロネシアにはこの賛辞にふさわしい女性が数多くいます。

「開けてみるまでは、ココナツに汁があるかどうかはわからない」
..(パラオ諸島のことわざ)..

今から50年以上も前、パラオ諸島近

くの幅わずか3キロ、長さ4キロの小島アンガウルでベン・ロベルトは生を受けました。「小さい時はアンガウルは広い所に思えたものです」とベンは言います。「しかし、雑誌で、またこの目で、ほかの場所について知るにつれ、島がほんとうに狭い所だと気づきました。」グアムで2年間大学に通った後、ベンはもっと広く世界を見聞しようとアメリカの陸軍に入隊しました。

ベトナムでの軍務で、ベンは期待していた以上のことを見てしまいました。「あんな経験は初めてでした。実際、人生って何なのだろうと考えさせられました。」軍での任期を終えた後、ベンはアメリカでさまざまな職業を転々とし、最終的に鉄鋼の仕事に就きました。「何か胸躍らせるもの」を探していたのです。けれども、「長い間探し続けたのに、まだ何か欠けていました。人生にはこれ以上の何かがあるはずだという気がしていたのです。」

ある日、モーターの一室でベンは備えつけの聖書を手に取りました。読んでみますます読み続けたい欲求に駆られたベンは、それまで探し続けていた何かとは神かもしれないと感じました。「そこで、いろいろな教会に足を運んで、真理を探求し始めたのです。すると私の心の中で何かが起こり始めました。それは私を悩ませ、パラオに帰るよう促しました。帰ることを決心したのはミルウォーキーに住んでいた時でした。」

パラオに帰ってからも、神を求めるベンは努力はなかなか報われませんでした。しかし、故郷に帰って1年余りたった1980年のある日、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師がベンに話しかけてきたのです。教会は当時パラオで伝道を開始したばかりでした。ベンは最初、宣教師の言葉をばかばかし

いと一蹴しました。けれども、モルモン経と何冊かの教会の書籍を読み終えた時、真理を見つけたというみたまの証を受けました。

ベンはバプテスマを受けて、その生活を主に捧げました。当時41歳という年齢にもかかわらず、彼は伝道に出るようみたまに促されました。伝道に召される可能性は低かったのですが、伝道部長はベンを地方部宣教師に召すように靈感を受けました。こうしてロベルト長老はパラオで16カ月間、伝道の召しを果たしました。解任されて間もなく結婚し、マニラ神殿で結び固めを受けました。

現在ベンは地方部長として奉仕しています。またパラオの教育委員会の委員でもあり、議会で働いています。「教会は私にこれまでで最高の教育を与えてくれました」とベンは言います。「仕事の割り当てを受けるといつも、これまでの教会での経験を生かして、つまり教会で責任を果たすときと同じ方法で、その仕事を処理するようにしています。」

ロベルト地方部長は、ミクロネシアの変革の波に新たな方向を与えている宣教師たちを称賛しています。福音により人々は生活をさらに改善しています。宣教師たちのすばらしい模範によって「多くのパラオ島民が教会を受け入れています。パラオに来た宣教師一人一人がよい印象を残してくれたからです。」

今では宣教師が地元の島々から召されています。ベンが伝道中に教えた人の中にレブルード・ケソレイというパラオ人の青年がいました。ケソレイ兄弟は最近みずからも伝道を終えました。伝道の最後の方は、伝道部長補佐も務めました。今ではほかの若者たちがケソレイ兄弟の模範に倣って伝道に出て



ベン・ロベルト（下）は地方部長を務める傍ら、パラオのコロールトップサイド支部（左）に活発に集っている。彼はパラオの教育委員会の一員でもあり、議会で働いている。

います。

地元出身の宣教師たちの生活に生じた変化には、目を見張るものがあります。「主がこの若者たちを伝道に導いてくださいます」とベンは言います。「そして主が彼らを磨いてくださるのです。行く先々で彼らは光り輝きます。そしてその光を目にしたパラオの若者たちは、自分もそうなりたいと願うのです。」

リーハイのように、彼らはココナツの実を割り、その汁を味わいました。（I ニーファイ 8：11-12参照）そしていまや、愛する者たちとその福音の実を分かち合うことに喜びを見いだしているのです。

「家族のきずなが絶たれることはない」
 ……（ボナベ島のことわざ）……

18歳のリックキー・ジョエルは今年ボナベ島の高校を卒業しました。ボナベ

島は幅19キロ、長さ23キロある山の多い熱帯の島です。リックキーは末日聖徒の2世で、教会に改宗する家族に与えられる祝福のよい模範となっています。

「リックキーはお酒も飲まないし、たばこも吸いません」と、妹のジェイリンは言います。「でも友達はたくさんいます。男の子たちは、『リックキーの言うことは聞かなくちゃ。祭司なんだから』と言っています。私の友達の女の子は皆リックキーに興味を持っています。檳榔子で歯が染まっていない男の子なんてめったにいないんですもの。」檳榔子は弱い麻薬で、ライムと





「人がどう思つかさえ気にしなければ、モルモンでいることは簡単です」とパラオのリックイー・ジョエル（18歳）は言っている。

一緒にかむと歯が赤く染まるのです。

リックイーの両親はポナペでの初期の改宗者です。父親がまず1977年に改宗しました。母親は、祖父がほかの教会の牧師だったこともあって、改宗するのに随分苦労しました。最初に島に来た時、宣教師は迫害を受けました。「ある人たちは宣教師を袋だたきにした挙げ句、悪い噂を流しました。でも、父は宣教師と親しくなったのです」とリックイーは言います。

それ以降も迫害が弱まったわけではありません。いまだにうそがまことしやかに広められています。教会に反対する発言をする学校の教師もいるほどです。そして、飲酒（アルコールと、手足をしびれさせるサカウという飲み物が好まれている）や喫煙が男らしさの象徴と考えられる社会にあって、

リックイーは知恵の言葉を守ることをチャレンジと感じています。「酒を飲めば友達はたくさんできます。そして、飲まなければ女の子みたいだからかわれるんです。」

リックイーは宣教師とともに働くことから福音の証^{あかし}を得ることができました。父親と同様、長老たちと親しくなった彼は、これまで3年間伝道の手伝いをしてきました。この経験を通してモルモン経は真実であると知りました。「教会のすべてが真実です」とリックイーは言います。「教会のおかげで私の霊は高められました。」

リックイーやほかの活発な末日聖徒の青少年と、同年代の若者とのあまりの違いを目にして、ポナペの人々の教会に対する態度も変わり始めました。多くの若い世代がアルコール中毒や家庭の崩壊などの新しい害悪に抵抗し切れない中、末日聖徒の若者はこのチャレンジによく対処できているからです。

それでも、ポナペ島の末日聖徒の青少年にも多くの課題があります。ほかの島々の末日聖徒の若者と同じように、彼らも目新しいものには関心があるのです。にもかかわらず彼らが道をそれずにいられるのは、仲間に受け入れられることよりも、神とのしっかりした関係を大切に考えているからです。天父への彼らの愛が神との結びつきを強め、主の戒めを守れるように助けているのです。

リックイーは言います。「人がどう思つかさえ気にしなければ、モルモンでいることは簡単です。」

「親切のある所には命がある」
…(マーシャル諸島のことわざ)…

宣教師が初めてマジロのヨルメツ

ト・モレアングと奥さんのピネッタを訪れた時、ヨルメツは忙しいからと断りました。彼は今では、あれは正直とは言えなかったと認めています。マジロではすることなどあまりないからです。マーシャル諸島の首都にはなっているものの、マジロはほかの多くの環礁と同じく、小さいながらも独立した世界を形成しています。第二次世界大戦中に建設された道路のおかげで、環礁中の小島のいくつかは結ばれています。マジロは56キロ以上の長さがありますが、幅はわずか数百メートルで、唯一の道路が西と東を結んでいるのです。レクリエーションといえば水泳と釣りくらいです。

マーシャル島民は信仰心があつく、客を温かく迎えることで知られています。ヨルメツは、自分が宣教師を冷遇したことを恥じて、とうとう彼らを家に招き入れました。初め宣教師が来るとピネッタは席を外していました。しかし、夫が真剣に生活を変えようとしているのを知って、自分も福音のレッスンに加わるようになりました。3か月後の1985年7月にヨルメツがバプテスマを受けました。そしてピネッタも同じ年の10月にバプテスマを受けました。

昔に比べると自分の生き方は随分よ

教会に改宗して以来、マジロのヨルメツ・モレアング、ピネッタ・モレアング夫妻の家庭は大きく変わった。「前は、家族のことにむとんちゃくてした」とモレアング兄弟は言う。「でも、天父が私たちを心にかけておいでになることを知ってからというもの、私は変わり始めました。」



くなった、とヨルメットは言います。「前は、家族のことにむとんちゃくでした。酒とたばこにしか興味がありませんでしたからね。でも、天父が私たちを心にかけておいでになることを知ってからというもの、私は変わり始めました。そして聖典や教会の本を読み始めたのです。」

ビネッタは言います。「教会に入ると、人に大きな変化が起こります。家族関係は改善されるし、互いに対してもっと敬意を抱くようになります。健康状態まで変わるんですよ。それから周りの環境を変え始めるのです。」

モレアング家族の変化は、容易には訪れませんでした。ヨルメットは言います。「宣教師たちに難問をたくさん浴びせたものです。でも彼らは決して怒ったり失望したりしませんでした。長老たちはいつも、まるでほんとうの兄弟のように、私を見守ってくれました。彼らを遠ざけようとするほど、私を愛してくれたのです。」彼らのやさしさと心遣いのおかげで、ヨルメットは聞く耳を失わずに済みました。こうしてようやく、みたまがまるで海から吹く涼風のように彼の魂を洗い清めてくれる日が来たのです。その瞬間彼は福音に従う生活を選びました。

マジュロに住む、ほかの多くの人々も同じ選択をしました。マジュロの推定人口2万3,000人のうち、実にその10パーセントが教会に改宗しています。しかし、改宗者を活発に保つのは大き

なチャレンジです。聖徒は訓練を必要としていますが、神権指導者の数が足りないのです。それでも、近い将来マジュロにマイクロネシア最初のステーキ部が誕生するかもしれません。モレアング兄弟は教会の急成長を次のように説明しています。「ほかの教会が真実の福音を教えていないからです。人は純粋な福音に接したとき、確かにそれとわかるものなのです。」

ヨルメットはその成長を間近に見てきました。バプテスマ後ほどなくして、彼はマジュロのロングアイランド支部の支部長に召されました。当時支部に集っていたのはたった4人でした。数年後その職を解任された時には、100人以上が出席していました。現在、モレアング兄弟は副地方部長を務める傍ら、ロングアイランド支部の日曜学校会長の責任も受けています。また、セミナーを教え、集会所の管理の仕事をしています。

昔と違って今のモレアング兄弟には、することがありすぎるほどです。

「主が海を私たちの道となしたもうた」

…(II ニーファイ10:20) …

最近までベテランの海の男たちは独特の海図を使って若者に航海する方法を教えていました。これらの海図には群島付近の波の型が記されています。若者たちはこの海図を参照しながら、島から島への航路を海面を頼りに知る

すべを簡単にマスターしていったものです。

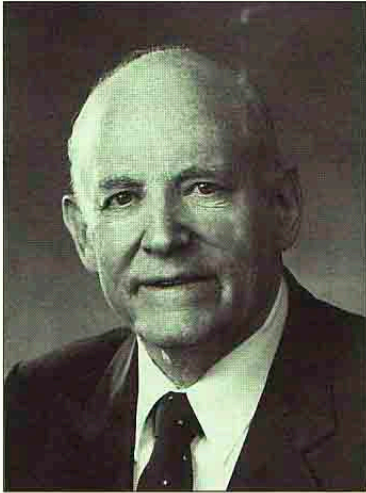
今日では、この海図はほとんど使われません。近代的な技術が、それを使う必要性も知識も押し流してしまっただけです。同様にほかの分野でも、近代化が社会的な変革となって津波のようにマイクロネシア全体に押し寄せています。この混乱に満ちた潮流の中、島民たちが安全な道を見つけることができるか、それとも潮に流されおぼれてしまうかは、多分に現在の彼らの選択にかかっているのです。伝統の中には保持されるべきものと、捨てられるべきものがあります。それに、新しい習慣の中には生活を改善してくれるものもあります。問題はどの伝統を保ちどれを捨てるか、そして新しい事柄のどれを取り入れるべきかという決断です。マイクロネシアの人々には経験豊富な水先案内人が必要なのです。

教会員にとって、主がその水先案内人です。教会を通して、主は新しい約束された未来に向かって安全な航路を示してくださっています。ヤコブはこう記しています。「主が海の島々の上にある者たちと結びたもうた誓約は大きな誓約である……。それであるから、あなたたちは喜び勇め。そして、あなたたちは自分の思う通りに行く自由があるから、……永遠の生命の道を選ぶかは、各自の自由であることをおぼえておけ。」(II ニーファイ10:21, 23)

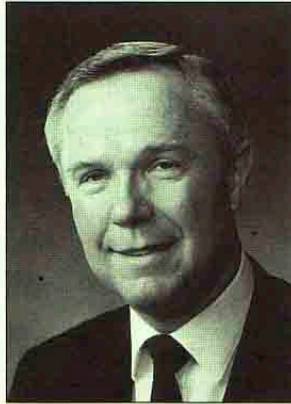
□

第14代大管長として支持を受けたハンター大管長

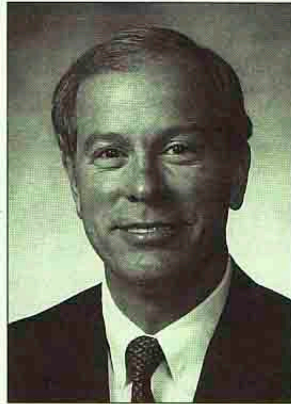
—教会幹部ならびに補助組織中央役員も新たに召される—



ハワード・W・ハンター大管長



デニス・B・ノイエンシュバンダー長老



アンドリュー・W・ピーターソン長老



セシル・O・サミュエルソンJr.長老

第164回半期総大会が1994年10月1、2の両日、ソルトレークシティで開かれ、ハワード・W・ハンター長老が教会の第14代大管長として支持された。

今大会は、6月に亡くなったエズラ・タフト・ペンソン大管長の後継者として、ハンター大管長が管理する最初の大会となった。

ハンター大管長に加えて、ゴードン・B・ヒンクレイ長老が大管長会の第一副管長ならびに十二使徒定員会会長として支持され、トーマス・S・モンソン長老が第二副管長として支持された。また、ボイド・K・パッカー長老が十二使徒定員会会長代理として支持された。続いて十二使徒定員会のそのほかの会員、七十人定員会会員、管理監督会の各会員、補助組織の中央役員らが支持された。

さらに、新たに3人が七十人第一定員会に召された。また、中央日曜学校会長が再組織され、中央若い女性会長会第二副会長が新しく召された。7人の七十人定員会会員が解任になり、さらにひとりの七十人定員会会員が教

会名誉幹部の称号を受けた。

これまで七十人第二定員会で働いてきたデニス・B・ノイエンシュバンダー長老は七十人第一定員会に召され、新たにアンドリュー・ウェイン・ピーターソン長老、セシル・オズボーン・サミュエルソンJr.長老も同定員会に召された。

新しい中央日曜学校会長会の会長には、七十人定員会会長会のチャールズ・ディディエ長老が、第一副会長には、七十人第二定員会のJ・バラード・ウォッシュバーン長老、第二副会長には七十人第一定員会のF・パートン・ハワード長老が、それぞれ支持された。

同会長会はこれまで、マーリン・R・リパート長老、クリントン・L・カトラー長老(1994年4月に逝去)、ロナルド・E・ポールマン長老が務めてきた。

これまで中央若い女性会長会第二副会長を務めてきたパトリシア・ピーターソン・ピネガー姉妹が解任となり、後任としてボニー・ダンズィー・パーキン姉妹が支持された。ピネガー姉妹は

中央初等協会会長として支持され、副会長には、アン・ゴーレン・ワースリン姉妹とスーザン・キャロル・リリーホワイト・ワーナー姉妹が召された。

中央初等協会会長は、これまでマイカリーン・P・グラスリ会長、ベティー・ジョー・ジェブセン第一副会長、ルース・B・ライト第二副会長が、6年半にわたり務めてきた。

名誉教会幹部の称号を受けたハートマン・レクターJr.長老(70歳)は、1968年、成人してからの教会への改宗者としては近年で初めて、教会幹部に召された。

また7人の教会幹部が、5年間の任期を終えて七十人第二定員会から解任された。アルバート・チョールズJr.長老、ロイド・P・ジョージ長老、マルコム・S・ジェブセン長老、リチャード・P・リンゼー長老、マーリン・R・リパート長老、ジェラルド・E・メルチン長老、ホラーシオ・A・テノリオ長老である。□

(新しい教会幹部および補助組織会長の略歴は、「聖徒の道」1995年1月号の総大会報告とともに掲載予定)

新しい会員伝道

——ナイジェリア人の青年との出会い——

東京北伝道部宇都宮地方部古河支部 遠田弘

去る6月26日、宇都宮地方部古河支部にまたふたりの新しい会員が加わりました。そのひとり、現在私と同じ職場で働いているナイジェリア人のデニス・ノーマン兄弟です。彼のバプテスマ会に出席した私は、非常な衝撃を受けました。その会のほんとうに霊的な雰囲気とすばらしい彼の証、そして私のような者が幾分かでも彼の改宗劇にかかわることができるようになったいきさつとその祝福を考えたとき、そこに確かに主のみ手があったことをひしひしと感じずにはいられなかったからです。

待ちに待った古河支部が誕生したのは、昨年1993年の6月20日。私はずっと以前から古河に支部ができれば、この地で主のみ業が大きく進展すると感じていました。私たちは古河で働いてくださる宣教師たちに心から感謝し、彼らを愛し尊敬し、一緒にいろいろな活動をするのが何よりの楽しみでした。

半年ほどたったころ東京北伝道部の熊沢伝道部長より、「日本新次元計画」と名づけられた新しい伝道方法のあらましと、そのモデル地区としてこの地方部が選ばれたとの発表がありました。この伝道方法は会員と宣教師が協力して、いろいろな活動と模範を通し多くの見込求道者を見つけ、彼らと会員、そして宣教師がほんとうの意味での友情を強め、教会に対してよい理解をしていただき、その中で関心のある方に福音のメッセージを伝え、より多くの人々を救いに導くというものでした。

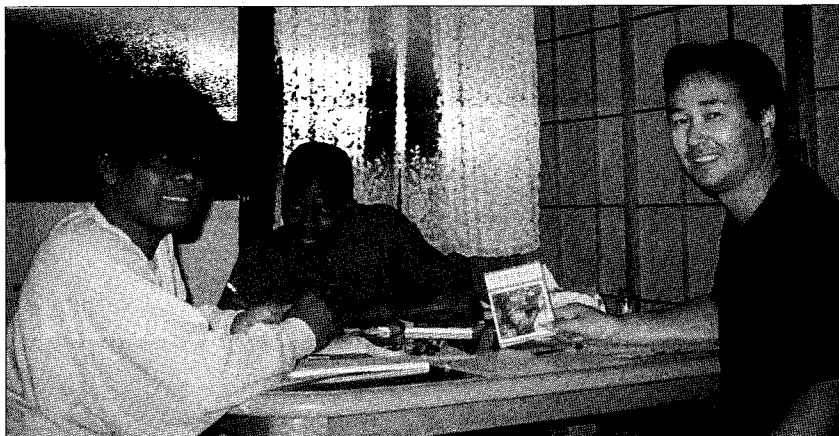
この発表を聞いた時、私は感動で身が震えるのを感じました。「きた、これだ!」とこぶしを握って喜びました。私は初めて宣教師に会って間もないころから、自分の特技、才能、好きなこ

とを通して伝道活動に参加したいと思い、細々ながらそれをしてきたつもりです。それが今回、主から確認をいただき、みんなでそれができるようになるとはなんとすばらしいことでしょうか。ところがひとつとても困ったことに気がつきました。それはここ数年仕事があまりにも忙しく、そのための活動に時間と思いを割くことがとてもできないということです。

とても悔しい思いをしていたある日、転属命令を受けました。そして日曜出

勤も余儀なくさせられる状況になるため、その仕事にやりがいと将来性を感じていましたが、断腸の思いで退職し、今の工場に入社しました。これまで営業の仕事がほとんどだったので、プレス工として働くことと収入の大幅なダウンに、いくばくかの不安もありました。しかし家から近いのと、時間内一生懸命働けばほかの時間は「日本新次元計画」に使えるということで入社を決めました。

そんなある日、職場でデニス（ノ



写真上——日本語教室での遠田兄弟（写真右）とノーマン兄弟（写真中央）
写真下——バプテスマ会でのノーマン兄弟（左から2番目）と宣教師たち



マン兄弟を私たちはそう呼びます)に会いました。彼がクリスチャンであることを知った私は教会のことを話し、日曜日に一緒に行くことを提案しました。2回目に教会に来てくれた晩に私は夕飯に招待し、宣教師たちにも来てくれるようお願いしました。長老たちには前もって次のように話しておきました。「決してバプテスマを急がないで。とにかくまず彼とよい友達になって」と。

ところが2回目の教会からの帰りに、車中でデニスが「ピーター・セン長老は私にバプテスマをしたいみたい」と言うので、びっくりし少し不安になりました。(長老たちは私との約束を破ってレッスンを始めていたようです。もっとも、これは長老たちがみたまの導きに従って行なったことだと、後でわかりました)そして3回目に教会に行った次の日、職場でデニスが私に質問してきました。「宣教師にはだれがなるんですか」と。私はデニスが「バプテスマを受けた人は、宣教師にならなければならない」と考えているのでは、と不安を感じましたので、それとなく「ふさわしい若い会員がなれるんですよ」と答えました。すると「若い会員は皆宣教師になれるんですか」と聞くのでますます不安になり、「本人が希望してふさわしければなれます」と答えたところ、次に彼が言った言葉を聞いて私は耳を疑いました。「私はナイジェリアに帰ったら宣教師になりたい。」なんとという祝福でしょう。

デニスはその後にも宣教師と会い、福音を学んでいきました。その間、ほかの会員の家でパーベキューをしたり、家庭の夕べに招待されたり、毎週やっているバレーボールに行ったりもしました。デニスはバレーボールは初めてでしたが、すぐ上手になりました。最後の戒めのチャレンジも長老たちのみたまによる証によって決心し、バプテスマ会になりました。

私は、デニスがこれまでの人生でよく準備し、完全な真理を待ち望んでいたことを強く感じました。そして「日本新次元計画」が確かに主のみこころであり、それに参加する私たちに想像を絶する祝福がもたらされることを証

します。デニスのほかにも古河支部では、「日本新次元計画」をきっかけにすでに数人がバプテスマを受けました。

私の家では、毎週木曜日に外国人向けの日本語教室(無料)を開いています。今のところ生徒はまだ4人ですが、遠路宣教師たちに手伝いに来てもらって楽しく勉強しています。今私は「日本新次元計画」のことを考えると楽しみで胸が弾みます。日本語教室を大きくすること、バンドを作って生演奏でダンスパーティーを開くこと、室内オーケストラと合唱団を作ってヘンドルの『メサイヤ』を演奏すること、釣

りクラブを作ること、そのほか一度にはできませんが、少しずつならできることがまだいっぱいあるからです。

我が家では、今もうひとつ楽しみにしていることがあります。それは近い将来、デニスが伝道に出る時にスポンサーになることです。

私たちが神様のみ業に心を向けるとき、主からの大きな祝福と助けが確かにあること、宣教師たちが私たちの伝道を助けるために確かに靈感を受けていることを伝道の喜びとともに証いたします。(えんた・ひろし 日曜学校「福音の教義クラス」教師)

日本で見つけた真理

東京北伝道部宇都宮地方部古河支部 デニス・ノーマン

私はナイジェリアのベニンで生まれ、14歳の時にカトリック教会に入りました。カトリック教徒の多い地域に住んでいたからです。しかし教会とは別に、ある聖書研究会にも出席していたことを批判され、5年間洗礼を受けさせてもらえませんでした。

1992年11月に日本にきましたが、新しい文化になかなかなじみず、悩んでいました。そんなある日、仕事を終えていつものように聖書を読んでいた。そして新約聖書のピリピ人への手紙第2章を読み、書かれている言葉について思いを巡らしていると、神が私に正しい道を示してくださいという確信を得ることができました。また、生活を変える必要があるとも感じました。

それから3日後、遠田さんという日本人が新しく職場にやって来ました。遠田さんに出身地を聞かれ、ナイジェリアから来たことを話しました。私がアフリカの出身であるにもかかわらず、遠田さんはほかの日本人とは違って、私に対する態度を変えたりしませんでした。今まで会った日本人とはまったく違うのです。最初のころ、うまく言葉が通じませんでしたが、遠田さんは私に関心を持ってしてくれているのがわかりました。そして、友達になろうとしてくれました。いつも遠田さんの深い

愛が感じられました。

遠田さんがクリスチャンであるとわかった時、初めはどの教会の方かわかりませんでした。しかし教会の日曜日の集会に招いてくれた時に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であると聞きました。モルモン教会の教義について何も知りませんでしたが、出席してみたいと思いました。この教会の集会に初めて集って、集会が終わるころには、とても幸せな気持ちを感じていました。会員は皆、遠田さんと同じように親切にしてくれました。ですから集会も好きになりました。それでも教義についてはまだ何も知りませんでした。私はもう一度だけ集って、それからは行かないようにしようと思いました。

次に集った時、ふたりの宣教師に会いました。ピーター・セン長老とニヒバリ長老でした。この若い青年たちから、**教会の教義がよくわかるメッセージがある**と言われ、私はそれを聞いてみることにしました。私はすでに聖書を信じていたので、彼らと私の信じている事柄は、多くの点で共通していました。しかし私が長年探し求めていた疑問の答えを見いだせたのは、聖書の中ではなく、この教会が独自に持つ書物の中でした。その書物とは、モルモン経と呼ばれているものでした。

疑問に対する答えがこの書物の中にあるとわかった時から、モルモン経が聖書と同じように、真の聖典であるということを知り始めました。それがわかると、宣教師の教えてくれたこともすべて真実であると理解できるようになりました。さらに、祈りを通して、ジョセフ・スミスが神の真の予言者であり、モルモン経が真実であるという確信を得ることができました。そしてバプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になる必要があるとわかったのです。

初め、ナイジェリアに帰ってからバプテスマを受けた方がいいだろうと思いました。日本語がなかなか覚えられなかったからです。しかし、ピーターソン長老がヨハネによる福音書第12章35から36節の「もうしばらくの間、光はあなたがたと一緒にここにある。光がある間に歩いて、やみに追いつかれないようにしなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこへ行くのかわかっていない。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい」という聖句を引用してくれました。私はそれを読んだ時、手遅れにならないうちに、できるだけ早くバプテスマを受けなければと思いました。

バプテスマを受けてから、いろいろな面で生活が変わりました。末日聖徒イエス・キリスト教会が神の真の教会であることを、そしてこの教会の創始者であるジョセフ・スミスは神が選ばれた予言者であることを、今心から証することができます。また、モルモン経は神のみ言葉であることを証します。

今、私には、ほかの人がキリストのみもとに来て、真実を知ることができるよう助ける責任があると感じています。主のぶどう園はアフリカ、そして世界じゅうに広がっています。アフリカに戻ったら、この主のぶどう園の働き手になりたいと強く願っています。そして終わりまで耐え忍び、再び父なる神とともに永遠に住みたいと思います。□

*デニス・ノーマン兄弟は、9月25日、メルキゼデク神権の職に按手聖任されました。

日章旗

50年振りに遺族のもとへ

—あふれるばかりのエライジャのみたま—

東京東ステーキ部鎌ヶ谷ワード部 井上龍一

昨年8月、アジア北地域会長会第二副会長の島袋長老より「ハンセン前会長からの依頼です。この旗の持ち主を捜してください」と言われ、私は多くの方が署名している古い日章旗をお預かりしました。日章旗に書かれた「山登正一^{やまとうまかず}」という名前を見た時、珍しい名前なのできっと簡単に見つけることができると思いました。早速、読売新聞社にファックスを送ると、長谷川さんという記者が取材に来てくださり、9月17日夕刊に記事になりました。その時には、すぐ見つけることができるだろうと思いましたが、しかし実際はなかなか大変な調査となり、遺族の方にお渡しできたのは約1年後のことでした。

私は以前、岡山の地区代表をしていた時、ブラッドフォード地域会長から「井上兄弟にやってもらうように」という特別のご指名があり、米兵の拾った印鑑と手帳をご遺族の方にお返しし

たことがありました。（「聖徒の道」1986年8月号）その後、沖縄で写真と位牌^{いはい}、そして日章旗（これは持ち主を発見できなかった）を持ち主にお返しすることにたずさわり、このような依頼は今回で4度目でした。そして、これまでの経験が、今回の調査のよい参考になりました。

関係者を発見することができた一番の力は、なんといっても教会員の祈りと協力でした。「LDSニュース」（広報委員会発行紙）に記事を掲載してから、多くの会員の方から「電話帳に『山登』という名前がありました」と手紙や電話でご連絡いただきました。そして、最後のまとめをしてくださったのは、大阪堺ステーキ部の雪本^{ゆきもと}治兄弟^{おさむ}でした。

靖国神社を通して「山登正一」氏の本籍地、および遺族代表である「山登^{あきはる}秋春」氏のことがわかりました。しかし、東京から何度も山登氏の本籍地の



日章旗を手に喜ぶ遺族のかたがた（三宅さんは写真左）

泉南郡岬町役場に電話をしましたが、「プライバシーがあるので」と現存の遺族の方については教えていただけませんでした。そこで、雪本兄弟が会社を休み、岬町を訪ねていただきました。役場ではやはり教えてもらえなかったのですが、町の歴史編さんをしておられる竹内氏を紹介されました。そして、ついに彼を通して「山登正一」氏のお姉様である「三宅千代子」さんの足取りをつかみ、連絡を取ることができました。

7月29日、私と雪本ご夫妻はご遺族の方と約束を取り、大阪府泉南郡岬町の「山登正一」氏の弟、故「山登春秋」氏の奥様宅を訪ねました。奥様の山登さん、お姉様の三宅千代子さん、そしてふたりの妹さんの4人が温かく迎えていただきました。温かくというより、これ以上心のこもったお迎えはないくらいでした。私たちを迎えるために、山登さんは家の外に出て待っていただきました。私たちの顔を見るなり、もう涙ぐんでおられたのです。私は、どのような経過でこの日章旗の関係者を捜すように依頼を受けたのか、またこの1年間どのように調査をしたのかについて短くお話ししました。

第二次世界大戦末期、米国アイダホ州のロバート・ホートン兄弟のお父様が、従軍中にフィリピン群島でこの日章旗を拾われました。ホートン兄弟はお父様が亡くなられて、遺品の中からこの日章旗を発見されたそうです。フィリピン諸島のどこでいつ拾ったのかは不明でした。ただ、ホートン兄弟はハンセン会長にあてた手紙の中で、「父はレイテ島、ルソン島などを転戦しました」と説明しておられました。

ご遺族の方は、私たちに「山登正一」氏がフィリピンから書いたはがきと、戦友からの彼の戦死の知らせのはがきとを見せていただきました。この2枚のはがき以外には何の遺品もなかったのですが、ホートン兄弟のお父様がこの遺品を大切に保管して下さったことを喜び、また涙を流しておられました。

「彼〔エライジャ〕は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん。もし然らずば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃

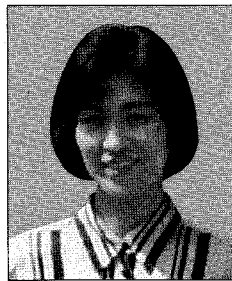
れん」(ジョセフ・スミス2:39)とあります。先祖や家族を思う気持ちがエライジャのみたまであるなら、私たちはその山登さんの家で、エライジャのみたまをあふれるばかりに受けました。私たちは皆、その場にいてとても幸福でした。神殿の中にいるような気持ちでした。神様が、このような感動的な時間を私たちに与えてくださったこと

に感謝しました。私たちは、山登さんや三宅さんたちにこの回復された福音の書かされているモルモン経をプレゼントさせていただきました。

多くのかたがたのご協力により、このすばらしい証を得ることができましたことに感謝いたします。(いのうえ・りゅういち アジア北地域広報ディレクター)

人を思いやる気持ちを持つとき

大阪堺ステーキ部堺ワード部 雪本のしぶ



その旗は、故山登正一さんの無事を祈って、愛する人々が出征する時に贈られたものでした。少々染みはあるものの、絹地の日章旗は50年の歳月を感じさせないほどで、大切に保たれてきたのがわかりました。山登さんのご家族の最終的な所在を確認するに当たって役立ったのは、系図を探求した時の経験でした。山登さんのご家族を見つけだすために払われた多くのかたがたの努力や愛、思いやりから感謝し、主の深い愛と導きがありましたことを証いたします。

調査を始めた主人は、まず岬町役場を訪問しました。しかし何の情報も得られず、その足で、古くからの資料が豊富な市の資料編集室を尋ねました。そこでも具体的な情報は得られなかったのですが、室長さんが地元の古いお米屋さんに問い合わせさせていただきました。そして、そこで山登正一さんの実の姉、三宅千代子さんの所在がわかりました。調査を始めたその日のうちに、お姉さんの所在がわかったのです。

私が今回お手伝いできたのは、三宅

さんと連絡を取り、日章旗を手渡すことでした。連絡をした当初、見ず知らずの人が50年前に亡くなった弟さんについて話してきたせいも、三宅さんはあまりの突然の出来事に不安を感じておられたようでした。また、彼女は私がモルモンであることも心配されていたようでした。私もその気持ちがわかり、どのようにお話ししたらよいかとも思いましたが、今まで学んできた福音が私の心を平安にし、必要な言葉が自然と与えられているのがわかりました。

そして訪問させていただく約束を取り、7月29日の午前中、井上兄弟と主人と私の3人で、山登正一さんの弟さんのお宅に伺いました。日章旗をお渡しし、発見からどのような経緯で今日に至ったのか遺族のかたがたとお話しすると、山登家のかたがたも自然に話に耳を傾けてくださり、皆さんが家族をどれほど大切にされているかわかるような時間でした。

三宅さんに旗が渡された時、ここまで導いてくださったのは天父の深い愛であることを知りました。手にした日章旗をやさしく見詰めながら、その感触を確かめるようにさする三宅さんの目から涙があふれました。そして弟さんについて話していただきました。思いやりがあった人柄をしのびながら、悲しい出来事の経過をとつとつと話される彼女を見るにつれ、どれほどに弟正一さんをいとおしく思っていたらっしゃるかがわかりました。家族のすば

らしさを感じ、みたまに満たされ、言葉で表わすことのできない喜びを覚えました。

三宅さんと電話で連絡を取っている時、そして日章旗をお渡しするために訪問しお話ししている時、私はいつも正一さんの存在を近くに感じました。そして彼女たちに対して何かしらの親しみを覚え、温かさを感じさせる人柄にどこか懐しさを感じました。その時私は、山登さんが死者として救いの時を待っていらっしやと強く感じました。不思議に思えるくらい霊の働きを感じていました。人々の思いのこもった日章旗が50年前フィリピンの激戦地で拾われ、多くの人々の手を経て、家族の元へ届くまでの道のりと年月に思いをはせると、「人を思いやる心」がひとりでも欠けていたならこの業は行なわれなかったと思います。

三宅さんたちにお会いし、お話しできたことはすばらしい祝福でした。私たちは心から親しみを覚え、愛を分かち合うことができ、皆さんにモルモン経を贈ることができました。もちろん室長さんにもです。

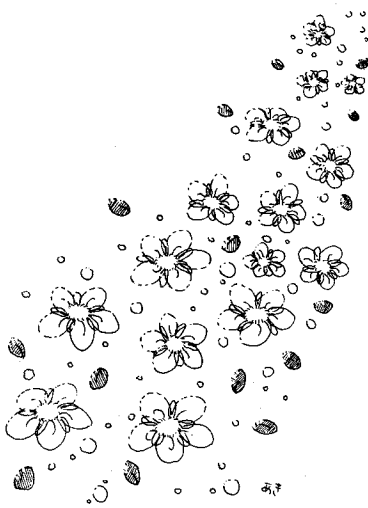
私たちはシオン山の救い手として、現世においての使命があります。私はみずからが改宗するに当たって、天父の導きのもとイエス・キリストの福音を受け入れるときに、先祖の愛と助けがあったことを知っています。家族で最初の改宗者になり、福音の原則に従い、家族と系図を探求することで、先祖とともに救いに至る道を歩み出しています。神殿で奉仕する時、毎日の生活の中でイエス・キリストの道を歩むとき、相互に助け合いながらともに昇栄への道を歩む努力をしなければならぬという証があります。

50年の歳月を要し、旗の持ち主、拾った父親、息子、指導者、友人、持ち主の姉が愛を持ち、思いを行ないに変えた時、生者と死者が一致し、回復された福音をより理解する機会となりました。ハンター大管長は召しに就かれる時「私たちが互いにもっと親切にし、もっと礼儀を尽くし、もっと謙遜で、忍耐強く赦し合えるように祈っています」とおっしゃり、人を思いやる気持ちを持つよう話されました。

主は「誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て」従い「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とおっしゃいました。この戒めを行なうとき、私たちは世の光となりイエス・キリストを証し、福音を分かち合うことができます。

遺族の元に日章旗が戻ることにより、彼を愛した人々に回復された福音が伝えられたことは、大切な真理だと思います。同じように、今の私たちが心からの愛と思いを隣人に捧げるならば、世の光となり私たちは主の前に導かれると思います。箴言第18章16節には「人の贈り物は、その人のために道をひらき、また尊い人の前に彼を導く」とあります。原則に従うとき、必ず私たちは天父のそばで平安と喜びを味わうことができると思います。よい贈り物をする機会が私たちにはたくさんあります。そして、主がいつも私たちのそばにいて導いてくださり、愛を注いでくださっていることを証いたします。(ゆきもと・しのぶ 託児指導者)

*その後、ご遺族の方からの快いご理解とご協力をいただき、「山登正一」氏の家族の記録は、8月17日神殿へ提出され、10月に本人およびご両親のすべての神殿の儀式が執り行なわれました。



この「好ましきこと、われらはこれを

——盲学校教員として

札幌伝道部釧路地方部帯広支部
有澤良康

私は教員になって間もなく30年、特殊教育にかかわるようになって24年がたとうとしています。その間、障害を持った多くの生徒や卒業生などと接してきました。そして教師として教えるばかりでなく、多くのことを彼らから教えられ学んできました。たくさんの方の感動と、奇跡を見ました。確かに神はおりたもうと証できます。私が今までに職業上得た「好ましいこと、よき聞こえあること、褒むべきこと」(信仰箇条第13条参照)について分かち合いたいと思います。

前任校である北海道高等盲学校に勤めていたある日、年に1、2度の宿直の日でした。舎務室にいますと、ある専攻科の男子生徒が「すみません。先生、ミシンの針に糸を通してくれませんか。何度かやってみたのですが通らないんです」と言ってきました。

そこで舎務室の隣にある作業室へ行くと、その生徒はほころびたパジャマのズボン直そうとしていたのです。私は「寮母さんにやってもらったら」と言いかけて、「待てよ」と言うことを引っ込めました。男子生徒であろうと視力障害者であろうとやろうとしているのをやめさせるのはよくないと思い直したのです。そして「大変だね。どれどれ」と言いながら、私も普段やったことのないミシンの針に何とか糸を通してあげました。そして生徒が仕事をするのを見ながらいろいろ話をしました。

この生徒は私より1歳年上。でも実に若々しいのです。4年前のこと、ト

よき聞えあること、あるいは褒むべきことあらば、 たずねもとむるものなり」

うこと——

トラックの運転手をしていて、ある日トラックから降りた途端、突然目の前が真っ暗になり、どうなったのか訳もわからぬまま闘病生活が始まったというのです。過激な労働による網膜剥離が起ったのです。治療の結果左目はなんとかある程度の視力が回復し、眼鏡でなんとか調整したものの、ひどい乱視のため仕事どころか普通の生活にも不自由を来すこととなり、途方に暮れる毎日であったということです。

家庭には妻子があり働かないと食べていけません。どうすればいいのか考え苦しみ、ある人の勧めもあって、視力障害者に開かれている道、マッサージ・はり・灸の理療師として自立すべく、高等盲学校の専攻科の門をたたいたのです。網膜剥離が起った日から2年がたっていました。

この時47歳、18歳の同級生と一緒に肩を並べての学生生活、ましてや東洋医学の専門用語、漢字には泣きを見たいと言います。また家族から離れての寄宿舎生活、食事は出るものの洗濯をはじめ、身の回りのこと、時には繕い物までやらなければならなくなったのです。その後1年して国家試験に合格し、卒業後病院の理療師として採用になり、今はりっぱにやっています。親のすねっかじりの生徒や、遊びほうけている学生に比べ、生活がかかっているだけに実に真剣そのものでりっぱです。教師として、ひとりの人間として頭が下がります。

この生徒と同じような境遇にある生徒の詠んだ短歌を、以下紹介してみたいと思います。

弱き目で なお見んとする
小さき文字



有澤ご家族

見すえるほどに かすみてゆくも

私も目が悪いのですが、眼鏡を掛けると運転免許が取れるほどに矯正が効きますのでさほど不自由を感じないのですが、生徒たちのほとんどは矯正不能。なんとじれったいことか、泣く思いだろうと心が痛みます。

夕立の 傘打つ音の とどろきに
行く道消えて なすすべもなし

なぜ「行く道が消える」のか。全盲者は残存感覚をすべて使って歩行します。音、風、におい、顔や手や足の触覚などなど。道々の人の行き交う音、車の音、街の騒音などすべての音、周囲の状況を体感し、白いつえを託します。その時の激しい夕立、雨が傘打つ音、流れる雨水、歩行の頼りであった数々の音を完全に奪ってしまいます。

それゆえに「行く道消えて」どう歩けばいいのか。その「すべもなし。」全盲者の戸惑い、困惑が伝わってきます。

知らぬ街 点字ブロックが 足に振れ張りつめし心 やっとやわらぐ

全盲者が知らない所、行ったことのない所を歩くのは大変なことで、緊張緊張の連続だと思えます。そんな時、行く先を示す点字ブロックに触り、ほんとうにほっとして力強い味方に会ったような、そんな状況をこの句は表わしていると思えます。

はり、きゆうに再起の道をひらかんと
五十路をすぎて 学舎にあり

幾カ月 文字を求める 指先に
はじめて読めし時 我が胸おどる

今持っている視力障害を消すことのできない事実として受け止め、その上に自己の生きる道を樹立しようと励む姿に感動を覚えます。

主は耐えられない試練は与えないと言われました。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐え

られるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(Iコリント10:13) またヨハネの福音書第9章にはこう書かれています。「『先生、この人が生れつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。』イエスは答えられた、『本人が罪を犯したのではなく、また、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためであ

る』と。まさしくそのとおりであると証します。

盲学校の教師としての仕事に携われることに感謝しています。福音が与えられていることに感謝しています。生徒たちにまして励まねばならぬことを痛感します。教え、教えられ、励まし、励まされる日々感謝しています。(ありさわ・よしやす 札幌伝道部釧路地方部第一副地方部長)

読者からの便り

●先日、「聖徒の道」編集室に、専任宣教師の方からこんなお便りが届きました。

「聖徒の道」編集室の方へ

私は札幌伝道部で伝道している姉妹宣教師です。今年5月6日にJMTC(日本宣教師訓練センター)に入り、帯広には5月19日から来ています。

ある日、私あてに大きな茶色の封筒が届きました。裏を見ると、私の出身の宮崎県の都^{みやこのじょう}城支部からでした。私はうれしくてすぐ開けてみました。すると航空書簡や郵便書簡、はがき、切手がたくさん入っていました。うれしいことにちゃんと同僚の分も別の封筒に分けて入っていました。私はほんとうに感謝の気持ちでいっぱいでした。

ちょうどその日は、Pデー(宣教師の準備の日)なので長老たちにも会う機会があり、私がもらった封筒について話すと、みんな「よかったね!」と言ってくれました。でもしばらくして、よく考えてみると変なことに気がつきました。都城支部の人は私のアパートの住所を知っているので、直接出すはずなのに、わざわざ本部を経由して転送されてきたのです。

8月27日に釧路でゾーン大会があり、釧路で伝道している長老が「姉妹! ぼくも姉妹とまったく同じ封

筒をもらったよ!」と言いました。その長老は、私の1カ月後にJMTCに入り、釧路に来たばかりです。彼は、出身が大阪なので「消印が横浜になっている。変だな」と言っていました。

私はアパートに帰るとすぐ自分の封筒をもう一度見てみました。やっぱり横浜の消印です。私と長老はまったく同じものを持っていました。きれいな字で、しかも毛筆で書いてありました。裏をもう一度よく見ると、書き方がちょっと変でした。というのは、私の支部からだったら都城支部と書いてあるはずなのに、福岡M/鹿児島D/都城Bと書いてありました。私は、「あれっ、この書き方は『聖徒の道』の専任宣教師の紹介の所に載っているのと同じだ」と思いました。考えられるのは、だれかが「聖徒の道」の宣教師の紹介を見て送ってくれたということです。

一体だれが送ってくれたんだろう、たぶん教会員だとは思うんだけど……なんてやさしい人なのだろうと思いました。その人に直接、「ありがとう」と伝えたいけど、わからないのでせめて「聖徒の道」に載せていただければと思います。

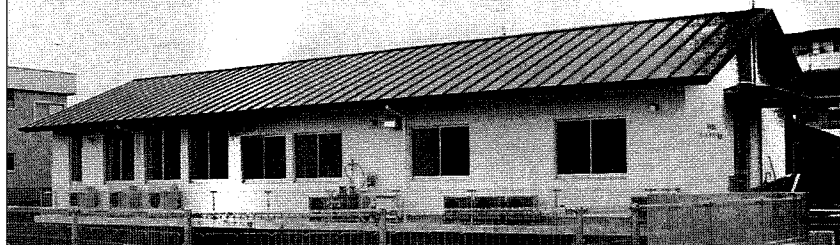
「ほんとうにありがとうございました。あなたの送ったはがき、切手、封筒とともに、あなたの愛も届きましたよ。」□

札幌伝道部専任宣教師
谷 和香 姉妹

新教会堂の 紹介

仙台伝道部郡山地方部いわき支部

(1994年6月1日完成)



名古屋伝道部 富山地方部高岡支部

(1994年5月20日完成)



木造平家建 建築面積：165.69㎡
延床面積：164.80㎡ 敷地面積：751.01㎡
住所：福島県いわき市新田前4番5
電話：0246-24-0752

鉄骨造2階建 建築面積：182.24㎡
延床面積：352.80㎡ 敷地面積：896.91㎡
住所：富山県高岡市泉町7番10号
電話：0766-25-3583

1994年度 「クモラの丘霊園」 分譲のお知らせ

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは、1994年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は、早目にお申し込みください。

*注——来年度は一区画310,000円となります。支払い方法は従来どおり一括または分割払いで、分割払いの場合は、初回金3,200円、以降毎月5,200円59回払いの無利子分割払いとなります。

所在地：埼玉県入間郡毛呂山町長瀬

1313 武蔵野霊園内

(池袋駅から東武東上・越生線で約1時間、武州長瀬駅下車、徒歩7分)

1. 墓地永代使用料
支払い方法 1区画 305,000円
一括または分割払い。分割払いの場合は、初回金 4,100円、以降毎月5,100円59回払いの無利子分割払いとなります。
2. 墓地管理料 年間3,000円(初回金とともに1年分を前納し、以降毎年定められた期日までに支払うものとします)
3. 申し込み方法 以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。
(1) クモラの丘霊園使用申し込み書
(2) 住民票
(3) クモラの丘霊園永代使用契約書 2通
(4) 銀行自動振替手続き書類
4. 今年度申し込み期限 1994年12月31日
5. 墓所の指定 申し込み書類受領確認の後、順番に行ないます。
6. 初回金および
管理料の振込先 三和銀行青山支店 普通預金口座 219499
クモラの丘霊園 代表 岡本 亮
7. お問い合わせ先 〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会内
クモラの丘霊園事務局 電話03(3440)2351(代)
8. その他の情報 分譲開始年月日：1982年9月19日
分譲数：1,600墓所中、567墓所が分譲済み。(1994年10月11日現在)
他霊園との比較——永代使用料は他霊園の5分の1から8分の1。

10月に召された専任宣教師

第182期生 15人



後列左から1-7, 前列左から8-15

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 高橋 充	仙台S/山形W	東京北伝道部
2. 佐野 一也	横浜S/横浜第1W	仙台伝道部
3. 服部 大	大阪堺S/羽曳野W	東京南伝道部
4. 佐藤 充	仙台S/青葉W	大阪伝道部
5. 坂本 愛生	東京北S/川越W	大阪伝道部
6. 山口 薫	福岡M/鹿児島D/鹿児島B	ハワイ・ホノルル伝道部
7. 山口 和子	福岡M/鹿児島D/鹿児島B	ハワイ・ホノルル伝道部
8. 小屋畑竹代	東京南S/渋谷W	岡山伝道部
9. 花岡 智子	岡山S/福山B	札幌伝道部
10. 時任 道子	札幌西S/手稲W	仙台伝道部
11. 吉田 宏子	我孫子S/我孫子B	名古屋伝道部
12. 木村 奈緒	京都S/伏見W	仙台伝道部
13. 山本めぐみ	大阪堺S/和歌山W	札幌伝道部
14. 高沢 リサ	東京東S/八千代W	神戸伝道部
15. 北川 真美	福岡S/福岡W	東京南伝道部

M: 伝道部, S: スターキ部, D: 地方部, W: ワード部, B: 支部

役員の変動

1994年9月3日から10月4日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 大阪スターキ部
新スターキ部長: 河野達廣 (前任者: 長浜俊生)
- 札幌西スターキ部小樽ワード部
新監督: 久保章 (前任者: 藤田烈!)
- 東京北伝道部宇都宮地方部古河支部
新支部長: 中村公一 (前任者: 麦屋幸俊)
- 東京北スターキ部豊島ワード部
新監督: 嶋原俊一 (前任者: 渋谷富雄)
- 岡山伝道部松山地方部今治支部
新支部長: 武田智幸 (前任者: 近藤啓司)
- 広島スターキ部岩国支部
新支部長: 島谷高一 (前任者: 藤川正信)

管轄変更

- 札幌スターキ部 稚内支部
支部長: 松山紀章
(1994年10月2日, 札幌伝道部より札幌スターキ部へ変更)

編集室から

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、各地の行事、家庭の夕べを紹介する記事などをお送りください。

▶現在ローカルページでは証の著者の生年を記載していませんが、編集作業の参考のため、投稿の際には連絡先(住所、電話番号)、教会での責任(役職名)、所属ユニット名と併せて生年を明記し、写真を同封のうえお送りください。
▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、

掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますので、あらかじめご了承ください。
▶あて先:
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
末日聖徒イエス・キリスト教会
「聖徒の道」編集室
電話03(3440)2666
FAX 03(3440)3275

伝道部/ステーク部/地方部/ワード部/支部一覽

日本札幌
伝道部
担当地区
 〈札幌ステーク部〉 旭川第1W, 旭川第2W, 厚別W, 札幌東W, 白石W, 豊平W, 岩見沢B, 士別B, 滝川B, 千歳恵庭B, 稚内B, 江別B
 〈札幌西ステーク部〉 小樽W, 琴似W, 新琴似W, 手稲W, 室蘭W, 藻岩W, 篠路B, 苫小牧B, 函館B
 〈釧路地方部〉 網走B, 帯広B, 北見B, 釧路B, 根室B

日本仙台
伝道部
担当地区
 〈仙台ステーク部〉 青葉W, 泉W, 上杉W, 長町W, 福島W, 山形W, 石巻B, 塩釜B, 古川B, 米沢B
 〈青森地方部〉 青森B, 大館B, 八戸B, 弘前B, 三沢B
 〈秋田地方部〉 秋田B, 酒田B, 鶴岡B, 横手B
 〈盛岡地方部〉 一関B, 北上B, 宮古B, 盛岡B
 〈郡山地方部〉 会津若松B, いわきB, 郡山B

日本東京北
伝道部
担当地区
 〈高崎ステーク部〉 桐生W, 熊谷W, 高崎W, 高崎東W, 前橋W
 〈東京北ステーク部〉 浦和W, 川越W, 越谷W, 豊島W, 中野W
 〈東京東ステーク部〉 鎌ヶ谷W, 小岩W, 千葉W, 長生W, 八千代W, 市原B
 〈我孫子ステーク部〉 牛久W, 北千住W, つくばW, 松戸W, 水戸W, 我孫子B, 日立B
 〈宇都宮地方部〉 宇都宮B, 小山B, 古河B,
 〈新潟地方部〉 三条B, 長岡B, 新潟B
 〈長野地方部〉 諏訪B, 長野B, 松本B

日本東京南
伝道部
担当地区
 〈東京ステーク部〉 吉祥寺W, 所沢W, ひばりヶ丘W, 三鷹W
 〈東京南ステーク部〉 大岡山W, 渋谷W, 千束W, 東京第1W, 東京第2W, 西小岩B
 〈東京西ステーク部〉 国立W, 甲府W, 多摩W, 八王子第1W, 八王子第2W, 府中W
 〈町田ステーク部〉 厚木W, 湘南W, 藤沢W, 町田第1W, 町田第2W
 〈横浜ステーク部〉 大船W, 上大岡W, 川崎W, 横浜第1W, 横浜第2W, 横浜中央W, 小杉B
 〈静岡ステーク部〉 静岡W, 清水W, 浜松W, 富士W, 沼津B, 袋井B, 焼津B
 〈本州軍人地方部〉 岩国SB, 佐世保SB, 座間SB, 三沢SB, 横須賀SB, 横田SB

日本名古屋
伝道部
担当地区
 〈名古屋ステーク部〉 岡崎W, 刈谷W, 豊橋W, 名東北W, 名東南W, 春日井B, 瀬戸B, 豊田B, 中津川B, 野並B
 〈名古屋西ステーク部〉 一宮W, 岐阜W, 御器所W, 高畑W, 福徳W, 犬山B, 大垣B
 〈石川地方部〉 金沢B, 小松B, 七尾B, 野々市B
 〈福井地方部〉 武生B, 敦賀B, 福井第1B, 福井第2B
 〈富山地方部〉 魚津B, 呉羽B, 高岡B, 高山B, 富山B
 〈三重地方部〉 伊勢B, 鈴鹿B, 津B, 松阪B, 四日市B

日本大阪
伝道部
担当地区
 〈大阪ステーク部〉 阿倍野W, 大阪W, 東大阪W, 枚方W, 関目B
 〈大阪堺ステーク部〉 河内長野W, 堺W, 羽曳野W, 三国ヶ丘W, 和歌山W, 岩出B, 泉南B, 泉北B, 橋本B
 〈奈良地方部〉 飛鳥B, 名張B, 奈良B
 〈大阪伝道部直轄支部〉 御坊B, 田辺B

日本神戸
伝道部
担当地区
 〈京都ステーク部〉 大津W, 下鴨W, 城陽W, 西京極W, 彦根W, 伏見W
 〈大阪北ステーク部〉 池田W, 川西第1W, 川西第2W, 千里中央W, 豊中第1W, 豊中第2W, 豊中第3W, 箕面W
 〈大阪東ステーク部〉 茨木第1W, 茨木第2W, 吹田W, 摂津W, 高槻第1W, 高槻第2W
 〈神戸ステーク部〉 明石W, 尼崎W, 加古川W, 神戸W, 西宮W, 姫路W, 北六甲B, 三木B
 〈福知山地方部〉 相生B, 洲本B, 豊岡B, 西脇B, 舞鶴B
 〈神戸伝道部直轄支部〉 関西B

日本岡山
伝道部
担当地区
 〈岡山ステーク部〉 岡山W, 岡山西W, 倉敷W, 松江W, 米子W, 出雲B, 尾道B, 倉吉B, 津山B, 鳥取B, 福山B
 〈広島ステーク部〉 高須W, 徳山W, 廿日市W, 広島光W, 岩国B, 呉B, 浜田B, 安古市B, 柳井B
 〈高松地方部〉 坂出B, 高松B, 徳島B, 丸亀B
 〈松山地方部〉 今治B, 宇和島B, 高知B, 南国B, 新居浜B, 松山B, 八幡浜B
 〈山口地方部〉 宇部B, 下関B, 防府B, 山口B

日本福岡
伝道部
担当地区
 〈福岡ステーク部〉 井尻W, 北九州W, 福岡W, 藤崎W, 飯塚B, 久留米B, 佐賀B, 中津B, 二日市B, 前原B, 八幡B
 〈鹿児島地方部〉 鹿児島B, 川内B, 谷山B, 名瀬B, 都城B, 宮崎B
 〈熊本地方部〉 諫早B, 大分B, 大牟田B, 熊本B, 熊本北B, 佐世保B, 白川B, 長崎B, 長嶺B, 延岡B, 八代B

日本沖縄
伝道部
担当地区
 〈那覇沖縄ステーク部〉 沖縄W, 小禄W, 首里W, 那覇W, 那覇東W, 普天間W, 糸満B, 浦添B, 嘉手納B, 名護B
 〈沖縄伝道部直轄支部〉 石垣B, 宮古B
 〈沖縄軍人地方部〉 沖縄SB, ハンセンSB, 普天間SB

(Wはワード部, Bは支部, SBは軍人支部の略)

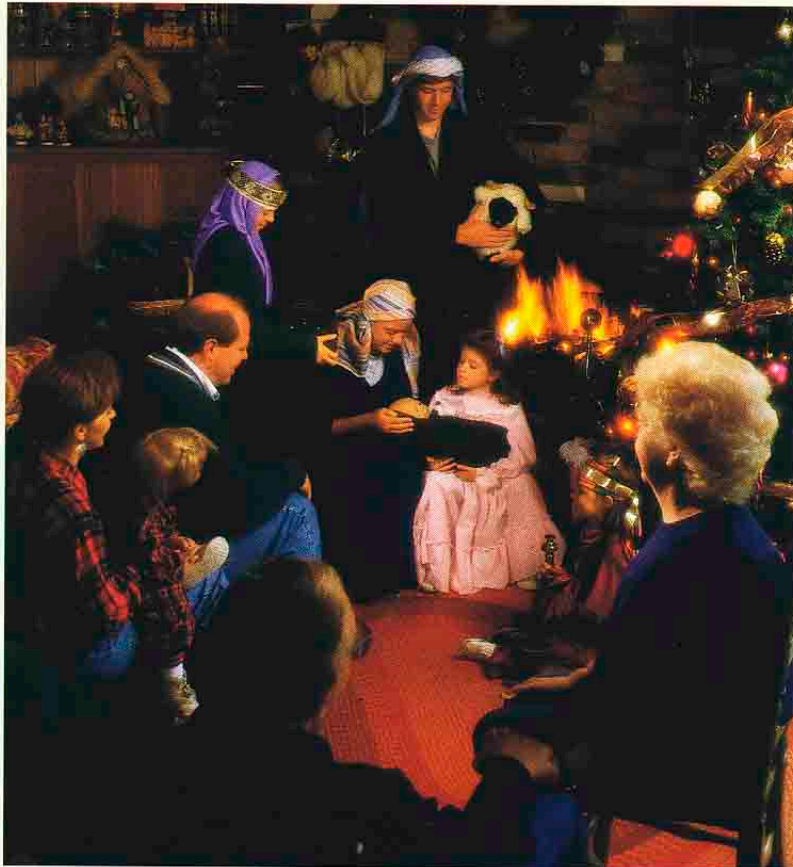
(1994年10月23日現在)



「エジプトへの避難」(部分) カール・ヘンリック・ブロック画

(デンマーク、フレデリックスボル城付属チャペル蔵。フレデリックスボル美術館の許可を得て掲載)

イエスがまだ幼な子であった時、「主の使が夢でヨセフに現れて言った、『立って、幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい。……ヘロデが幼な子を捜し出して、殺そうとしている。』」(マタイ2:13) ●



「キリストの誠の信者になれるように、努力しようではありませんか。自分の弱さを認めつつ、……正しく、確固たる決意で進んで行こうではありませんか。……私たちが今、イエスを救い主として認めるなら、イエスは……愛を込めて正しい生活を認めてくださるでしょう。」（本誌ニール・A・マックスウェル『誠の信者』p.10参照）